



協力：ホビージャパン



カラバ量産型可変モビルスーツ
MSZ-006A1
「ゼータプラス(テスト機カラータイプ)」
1/100 スケール マスターグレードモデル

MSZ-006A1 ZETA plus

KARABA PRODUCTION TYPE TRANSFORMABLE MOBILE SUIT



MOBILE SUIT
MSZ-006A1

ZETA plus

KARABA PRODUCTION TYPE
TRANSFORMABLE MOBILE SUIT

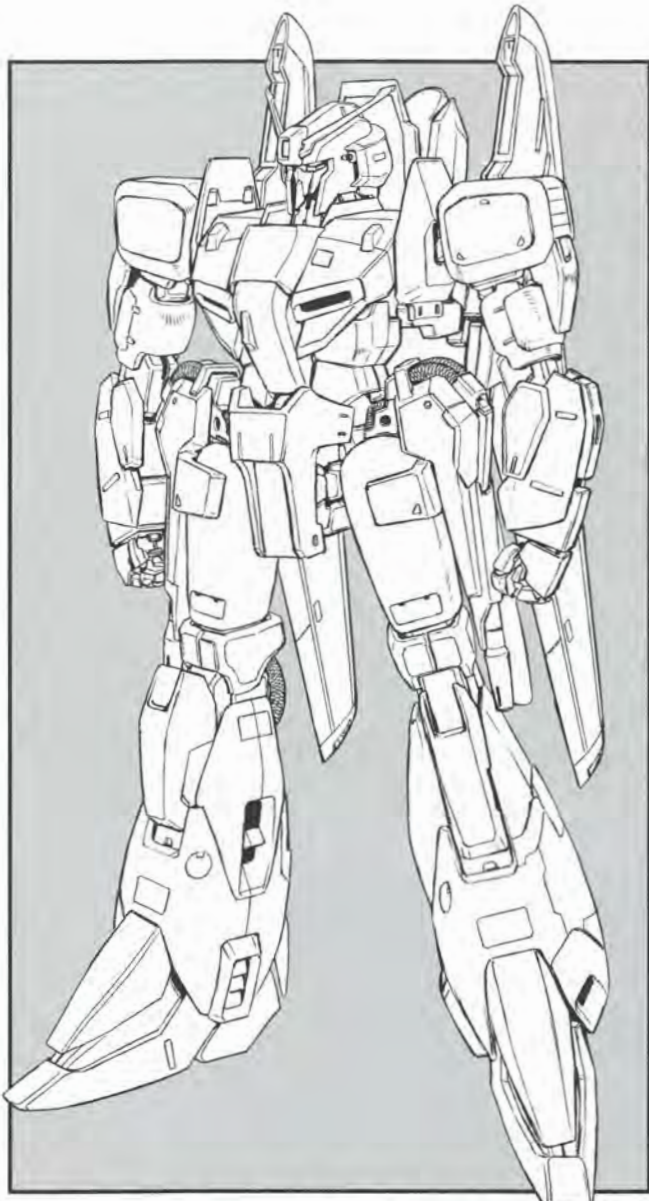


カラバ
量産型可変モビルスーツ
MSZ-006A1「ゼータプラス(テスト機カラータイプ)」
1/100 スケール マスターグレードモデル

BANDAI 2001 MADE IN JAPAN



0105569



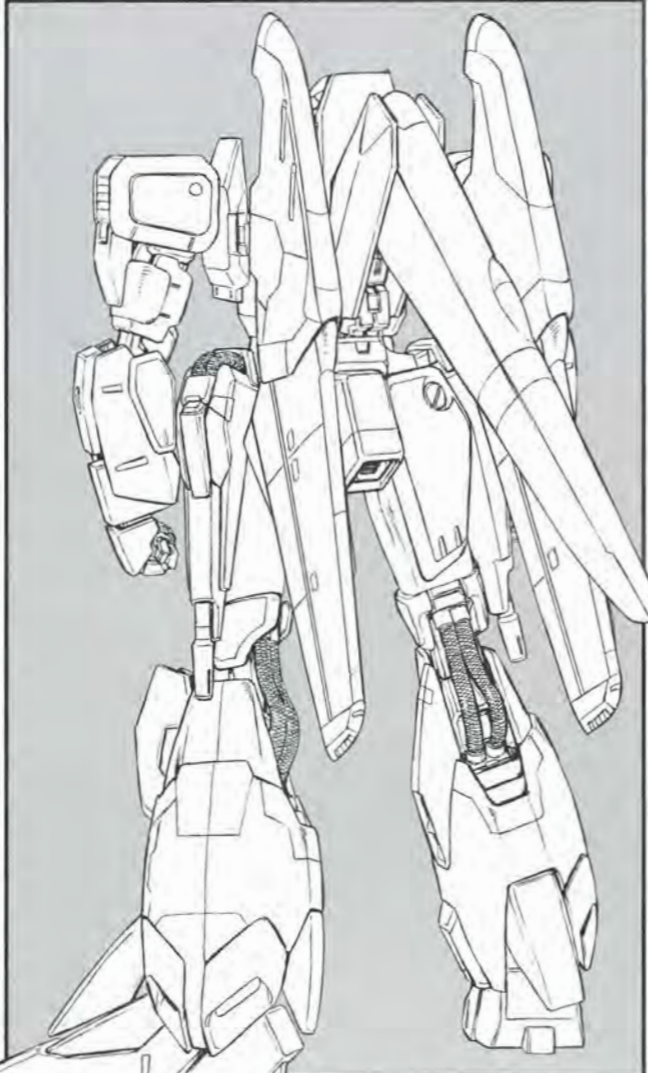
MSZ-006A1 ZETA plus

U.C.0087年、ノンオプションで大気圏へ再突入可能なTMS (トランスフォーマブルモビルスーツ)MSZ-006 Z(ゼータ)ガンダムが完成し、エゥーゴのフラッグシップMSとして高い戦果を挙げている。地球上におけるエゥーゴ屈指の支援組織であるカラバは、高性能MSと航空戦力を同時に拡充させるべく、同機を大気圏専用機に改修し、少数ながらも生産ラインに乗せた。その機体がMSZ-006A1 Zプラスである。同機をMSK-006と表記することもあるが、これはエゥーゴサイドが区別のため(MSKのKはカラバを表す)に便宜上付けたものであり、後に、再度大気圏再突入能力と空間戦闘能力を持つC1タイプなどが開発されるなど、ZプラスはZ系の最大のバリエーション機群であると認識されるようになり、制式番号としてMSZ-006の末尾にそれぞれの形式を追加して表記されるようになった。Zプラスは、Zガンダムの大気圏突入モードであるWR(ウェイブライダー)形態時のフライングアーマーの形状を改善し、WR形態時には、航空機並みに効率的な“飛行”に十分な翼面積を獲得している。また、MS形態時にもデッドウェイトとならぬよう、MSN-00100 百式のウイングバインダーを参考に、高性能のAMBACシステムとして稼働するよう配慮されている。同時に、Zガンダムの最大のネックであった変形構造を極力単純化させ、コスト面での改善を試みている。それでも、Zプラスが高価な機体であることには変わりなかったが、当時ティターンズが掌握していた各拠点空域における制空権の奪回と拠点攻略を同時に行うことが可能な手段は他になかったのも事実である。

Zガンダムは、エゥーゴのフラッグシップMSに相応しい画期的な高性能TMSであった。反面、基礎構造のコピーが容易であるにも関わらず、要求スペック通りに建造した場合、非常にコストが高く、また乗りこなすのが難しい機体でもあった。そのため、そのままの設計での量産化は早い時期に見送られ、いわゆる同型機が数機と主要パーツ群が製作されたにとどまっている。それらを使ってフライングアーマーの形状バリエーションやウェイブシューターと呼ばれるバリエーション機なども開発されたらしく、その内の何機かはカラバに供与され、大気圏専用機開発のテストヘッドとされた。さらに、大気圏外(地上数百ないし千kmの高度)まで一気に上昇可能な、超長距離侵攻用の大陸間弾道ブースターなども試作されたと言われている。

ともあれ、少数ではあっても、Zプラスの本格的な量産はカラバ主導のもとに行われることとなり、同機はAE(アナハイム・エレクトロニクス)のキャリフォルニア工場において開発、建造された。カラバは、Zプラスのみで構成される強力な特殊部隊編成を計画し、まず、ガルダ級アウドムラに18TFAS(Tactical Fighter Aggressor Squadron=戦術戦闘対抗飛行隊)を配備して遊撃部隊として運用。暫時、各地に展開して成果をあげ、同機は後に空間戦闘用の機体として再々設計されるほどの発展を見る稀有な機体となったのである。

ちなみに同飛行隊の隊長を一年戦争時のエース“アムロ・レイ”だとする説はあながち根拠のないものではない。事実上、連邦軍に幽閉されていた彼がこの時期カラバに参画していたのは事実であり、同年11月16日の“ダカールアピール”以後、それは公にされている。ただし“アムロ用Zプラス”と喧伝された機体はデモンストレーションのためのリペイントを繰り返していた機体で、同様のカラーパターンは俗に“ジム塗り”と呼ばれる量産機塗装に近く、結局は量産されなかったMSZ-007量産型Zガンダムにも似た塗装が施されており、単に納入時のデフォルトカラーだったという説もある。同様に、他にも“アムロ用”とされる機体が数機あることから、これは彼のネームバリューを反地球連邦運動に利用すると共に、所在を確定させないための配慮だったのではないかとされている。

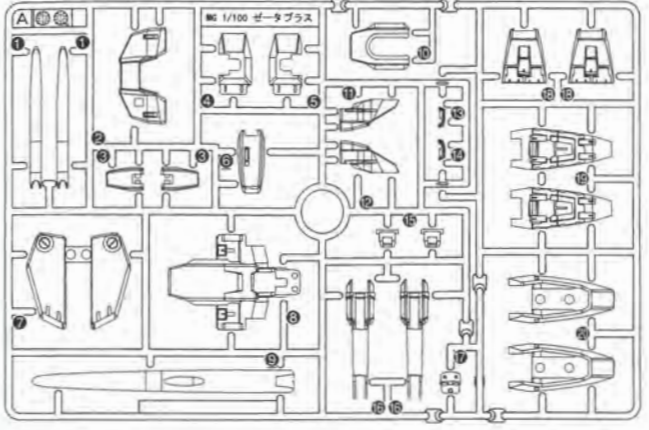


Conceptual illustration : Katoki-Hajime

パーツリスト

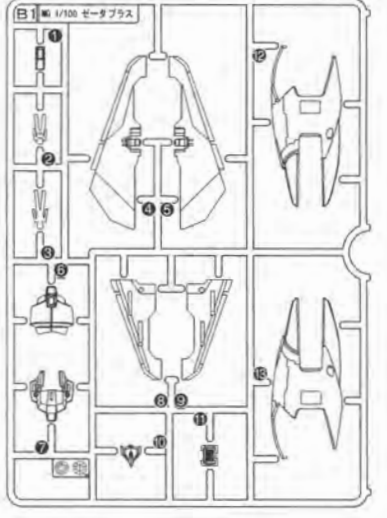
Aパーツ

(スチロール樹脂: PS)



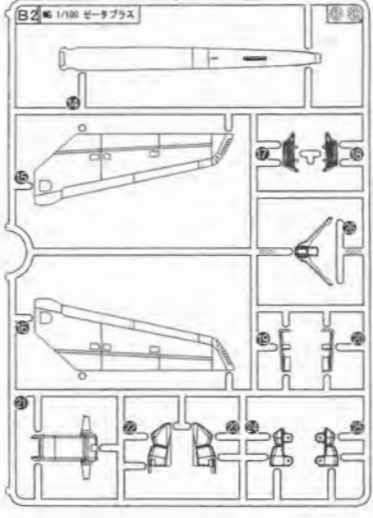
B1パーツ

(スチロール樹脂: PS)



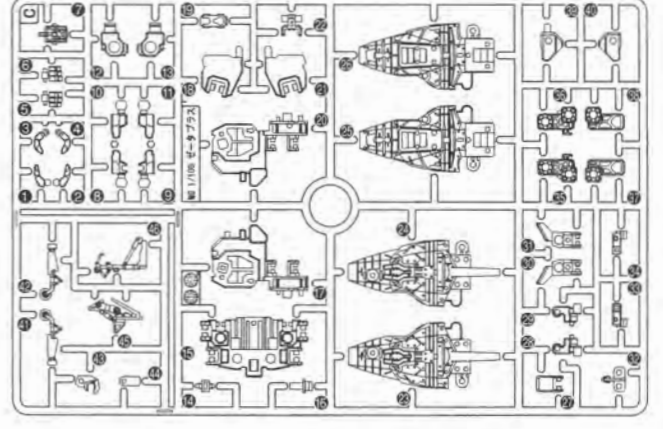
B2パーツ

(スチロール樹脂: PS)



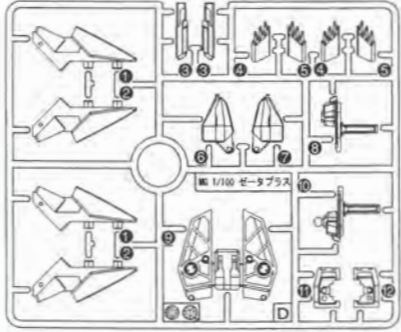
Cパーツ

(ABS樹脂: ABS)



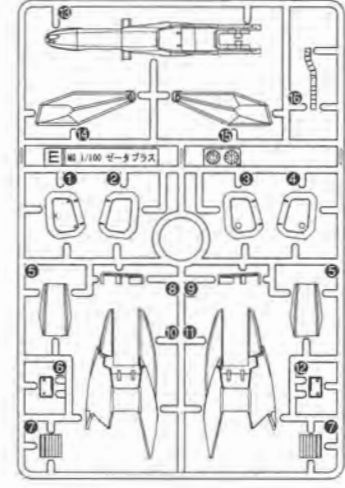
Dパーツ

(スチロール樹脂: PS)



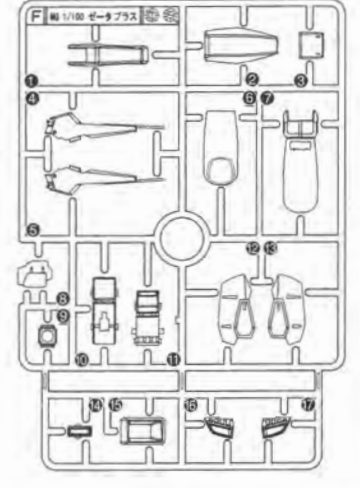
Eパーツ

(スチロール樹脂: PS)



Fパーツ (×2)

(スチロール樹脂: PS)



Parts name of MSZ-006A1 ZETA plus

Parts List

Arm & Leg Unit

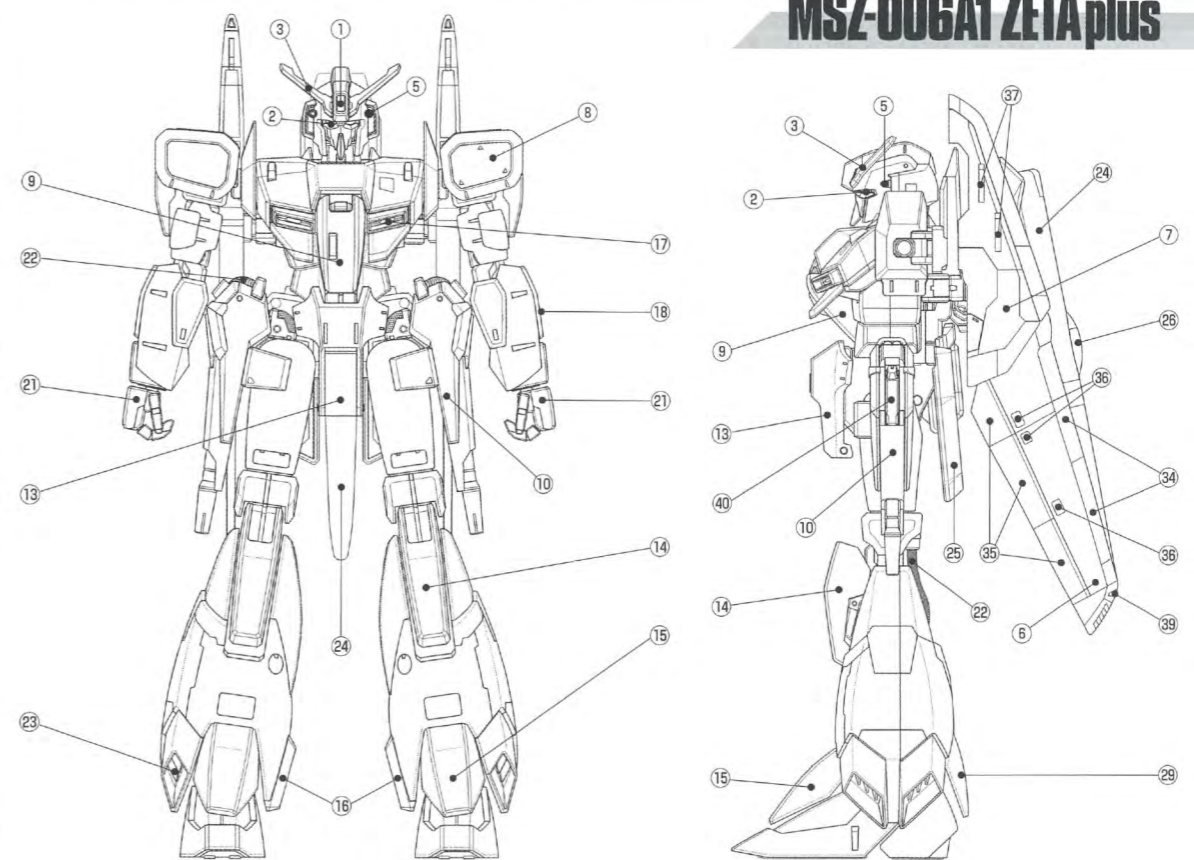
Head & Body Unit

Wave Rider

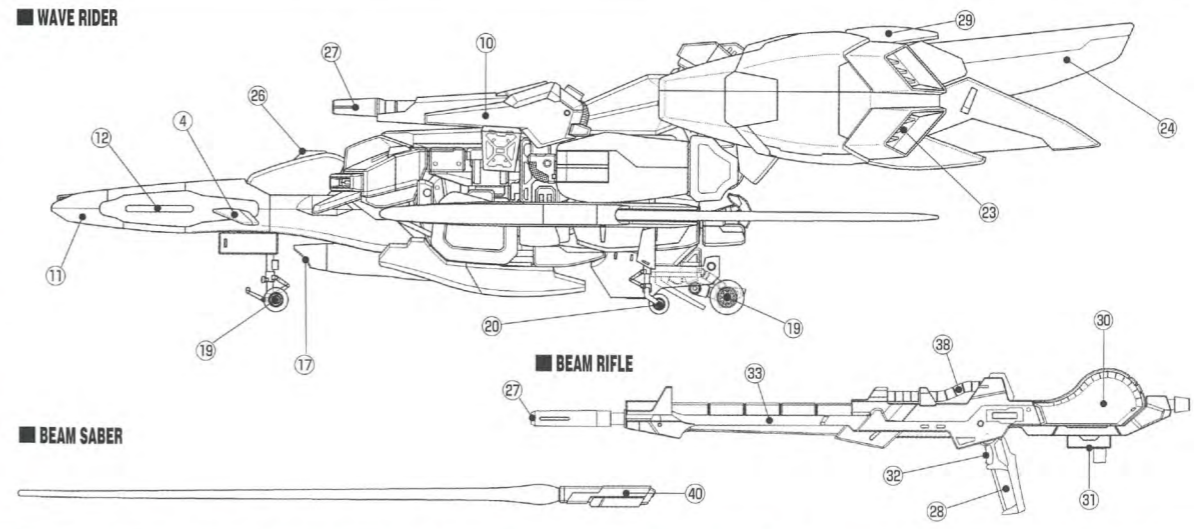
Weapons

Final Assembly

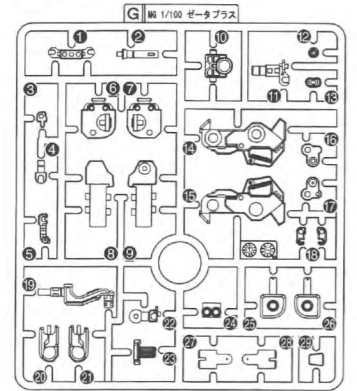
MSZ-006A1 ZETA plus



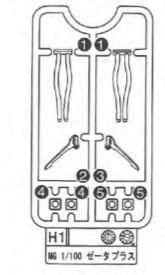
- | | | | | |
|-----------------|---------------|------------------|---------------|----------------|
| ①メインカメラ | ⑨コクピットハッチ | ⑰インテーク | ⑳リアアーマー | ㉓パレル |
| ②デュアルカメラ | ⑩ビーム・キャノン | ⑱シールドラッチ | ㉔サブセンサー | ㉔リーディングエッジフラップ |
| ③ブレードアンテナ | ⑪レドーム | ⑲ランディングギア | ㉕マズル | ㉕トレーリングエッジフラップ |
| ④カナード | ⑫サイドシーカー | ㉚サブランディングギア | ㉖フォールディンググリップ | ㉖オプションピボット |
| ⑤60mmバルカン | ⑬フロントアーマー | ㉛マニピュレーター | ㉗アンクルアーマー | ㉗ドロップタンクラッチ |
| ⑥バリアブルジオメトリウイング | ⑭ニージョイントアーマー | ㉜パワーサプライパイプ/ケーブル | ㉘エネルギーバック | ㉘データ/パワーサプライヤー |
| ⑦ウイングバインダー | ⑮フットジョイントアーマー | ㉝メインノズル | ㉙マウントラッチ | ㉙ナビゲーションライト |
| ⑧ショルダーアーマー | ⑯バーニアスラスター | ㉞テル・スタビライザー | ㉚トリガー | ㉚ビーム・サーベル |
- 注) 本機は、MSZ-006A1のうち最初期に建造された機体で、「Zプラス テスト機カラータイプ」と呼称される塗装を施されたものである。同機は後にリペイントが繰り返され、最終的にはC型やD型の開発母体として調達され、大幅な改装を受け続けることとなった数奇な機体である。



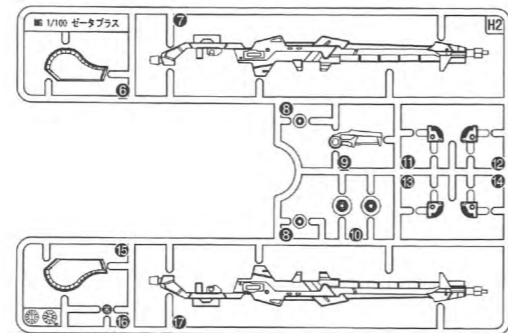
Gパーツ (×2)
(ABS樹脂: ABS)



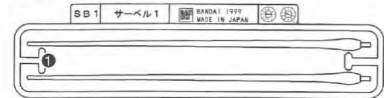
H1パーツ
(ポリエチレン: PE)



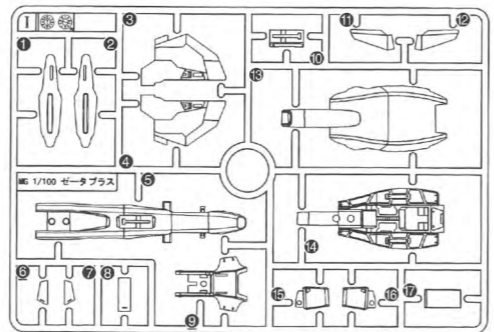
H2パーツ
(スチロール樹脂: PS)



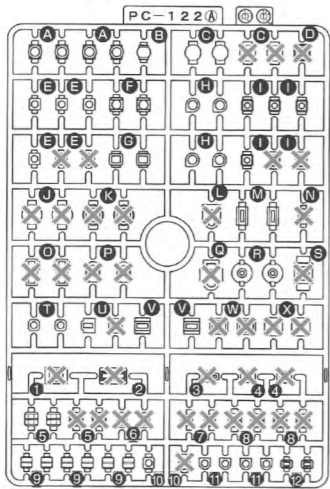
SB1パーツ
(スチロール樹脂: PS)



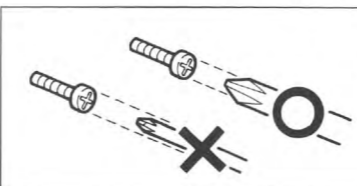
Iパーツ
(スチロール樹脂: PS)



PC-122A
(ポリエチレン: PE)



カラーシール……………1枚
マーキングシール……………1枚
ガンダムデカール……………1枚
メッシュパイプ……………1本
(PET樹脂: PET)
ビス……………4個+1個

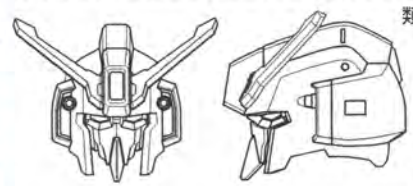


HEAD UNIT

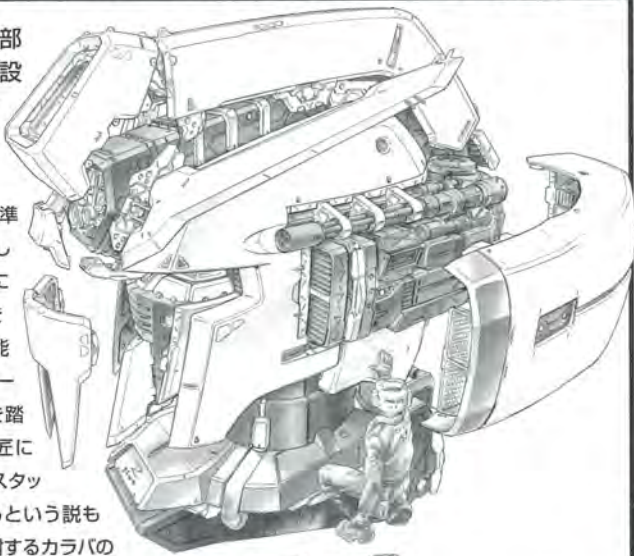
MSZ-006A1の頭部は、Zガンダムの基本設計

をもとにカラバが独自に開発したもので、特定のセンサーなどを除き、自主生産が可能となっている。さらに、メガキャノンの搭載なども可能な構造的余裕も持っている。

MSZ-006A1の頭部には、基本的に量産型MSIに採用されている標準的なデバイスが多用されており、機体全体としてのコスト削減に貢献している。無論、「ゼータ系」であることに変わりなく、一般的な量産型に比べれば高価な部類に入るが、実戦運用によるデータ収集そのものを目的とはしていないので、実用レベルが達成できれば、それ以上の機能やクオリティは必要ないとされた。それでも、メインカメラやセンサー



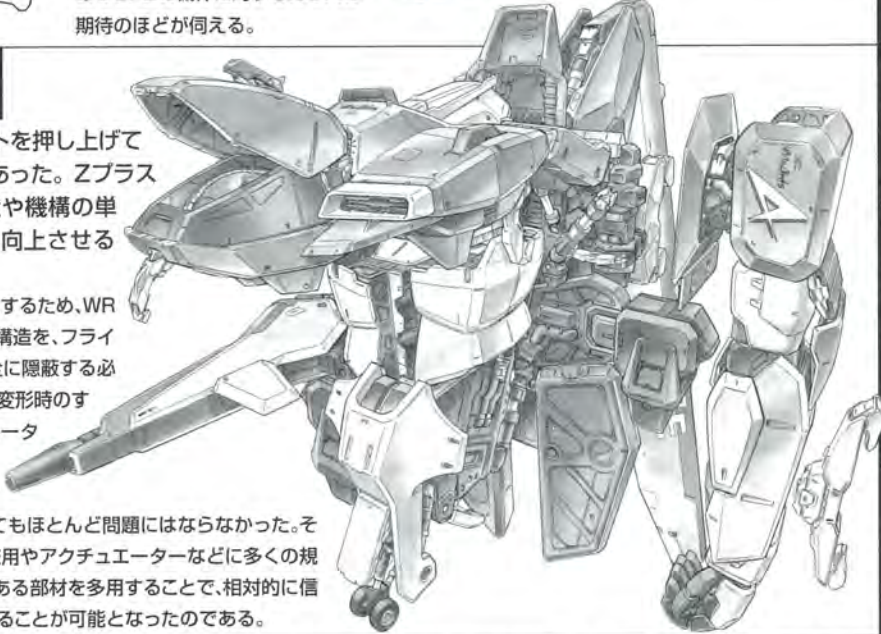
類はZガンダムの構成を踏襲しており、その意匠には、次世代機の開発スタッフが動員されているという説もあって、この機体に対するカラバの期待のほどが伺える。



BODY UNIT

MSZ-006 Zガンダムのコストを押し上げていたのは、ボディ構造の複雑さであった。Zプラスは、その構造を踏襲しつつ、形状や機構の単純化を計ることで、逆に信頼性を向上させることに成功している。

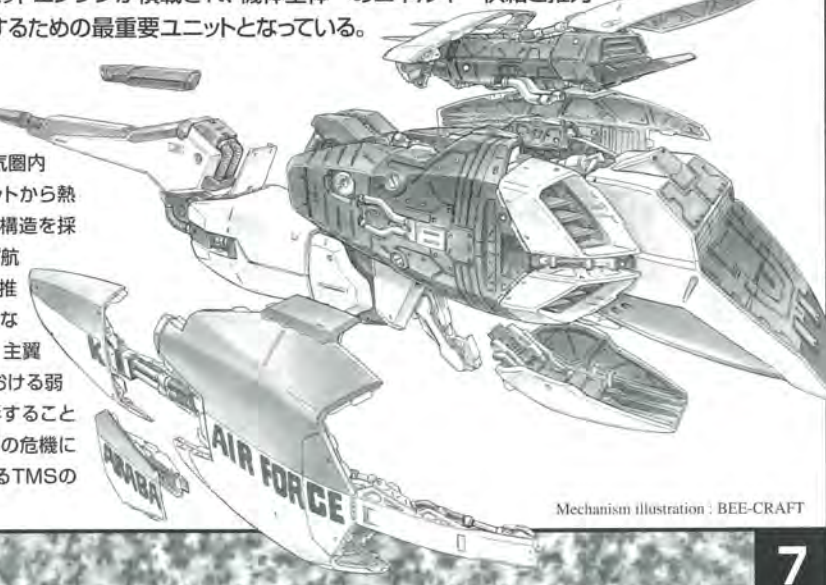
Zガンダムは、大気圏への突入を可能とするため、WR形態時に展開するボディユニットの内部構造を、フライングアーマー、シールドなどによって完全に隠蔽する必要があった。そのため、各接合部の形状や変形時のすりあわせが非常にシビアであり、結果、トータルコストの高騰を招いた。一方、Zプラスは、飛行する上での空力問題をクリアすれば、内部構造が多少露出していてもほとんど問題にはならなかった。そのため、可変機構を単純化し、ヒンジの兼用やアクチュエーターなどに多くの規格品を導入するなど、安定した生産性のある部材を多用することで、相対的に信頼性とコストパフォーマンスを向上させることが可能となったのである。



LEG UNIT

MSZ-006A1の脚部は、ビーム・キャノン装備するほか、メインジェネレーターでもある熱核ジェットエンジンが積載され、機体全体へのエネルギー供給と推力を獲得するための最重要ユニットとなっている。

MSZ-006A1に求められたのは、MSとして優秀であることはもとより、航空機としても高性能であることであった。その上で、量産に見合うだけのコスト削減を達成しなければならない。幸い、用途が大気圏内に限定されたため、主器を熱核ジェット/ロケットから熱核ジェットに換装することで、機体冷却に空冷構造を採用できるなどメリットも多かった。その一方で、「航空機」としてクリアすべき課題もまた多かった。推力に関しては、構造的に双発機であるためそれなりのフェイルセーフ機能を元々持っていたが、主翼の損壊は揚力の喪失と同義であり、WR形態における弱点となった。ただし、その際はMS形態に変形することで推力のベクトル変更が可能であり、ほとんどの危機に対処できることが判明。改めて重力下におけるTMSの有効性が確認されることとなった。



Mechanism illustration : BEE-CRAFT

注意

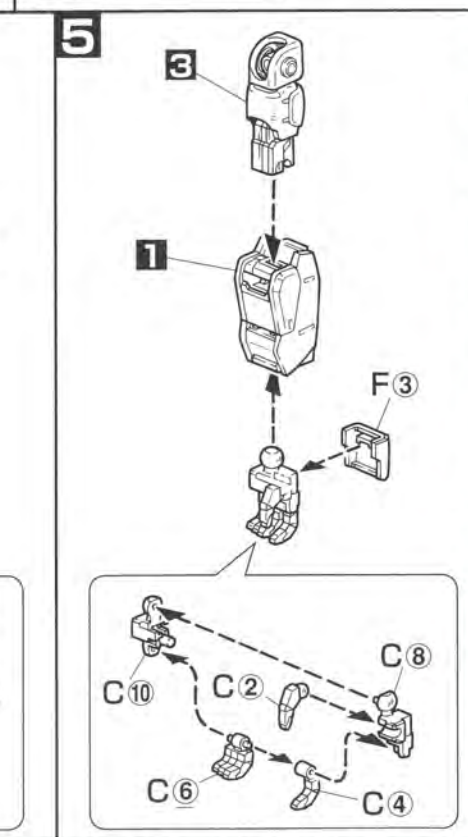
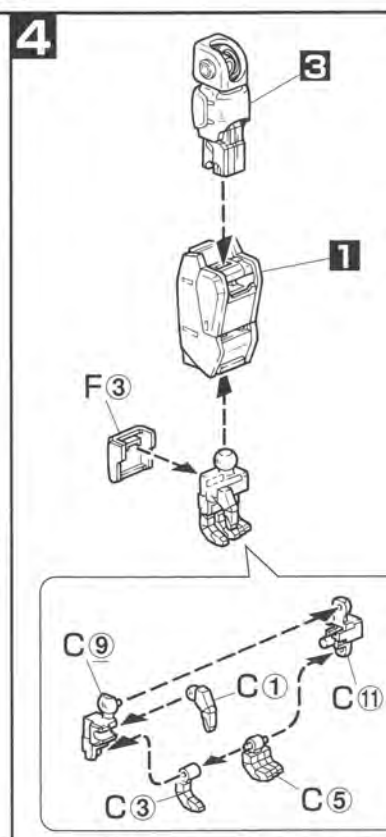
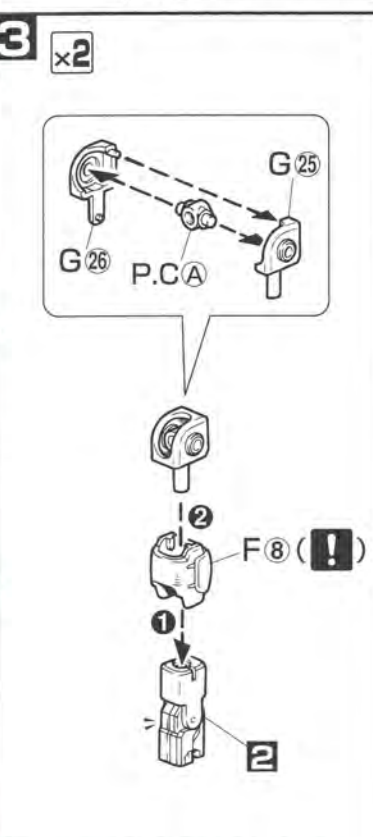
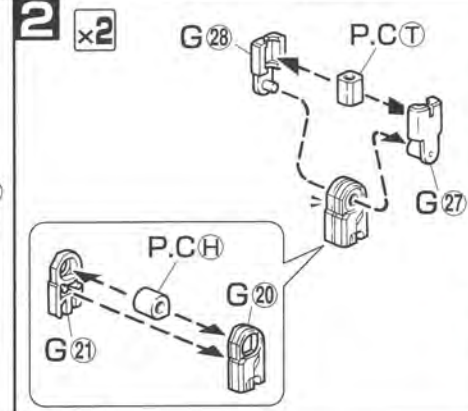
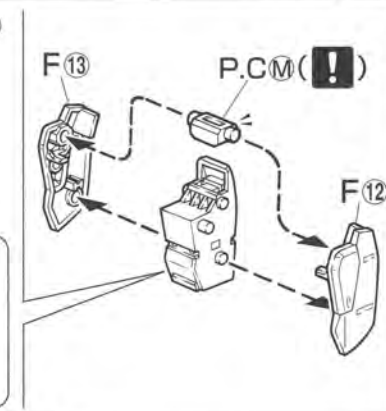
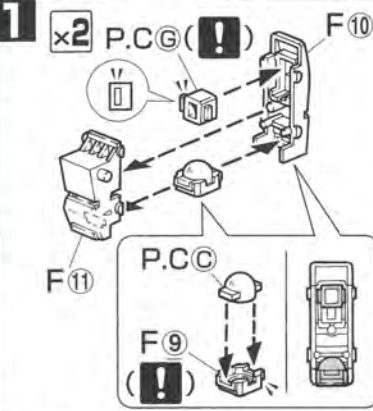
お買い上げのお客様へ 必ずお読みください。

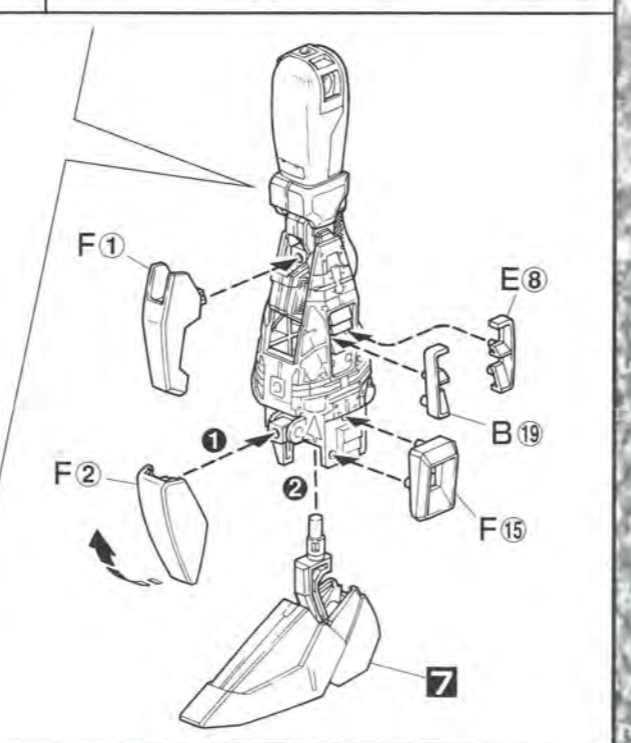
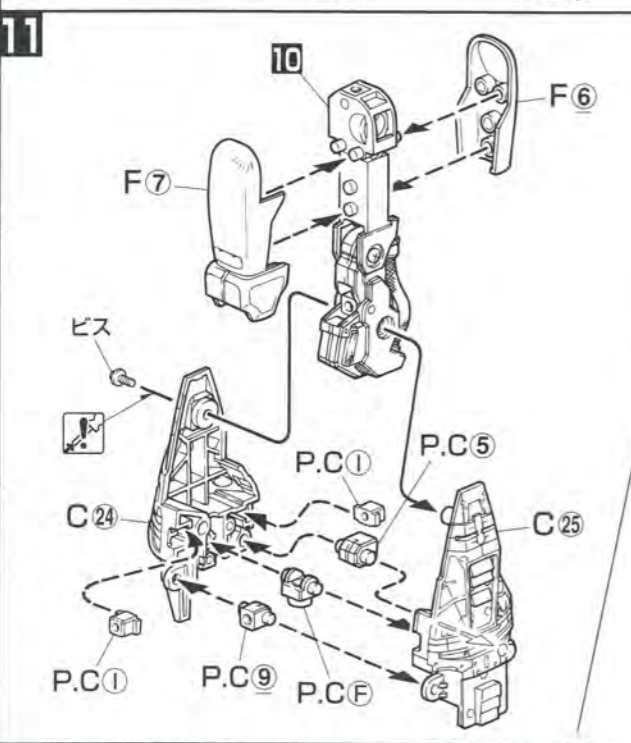
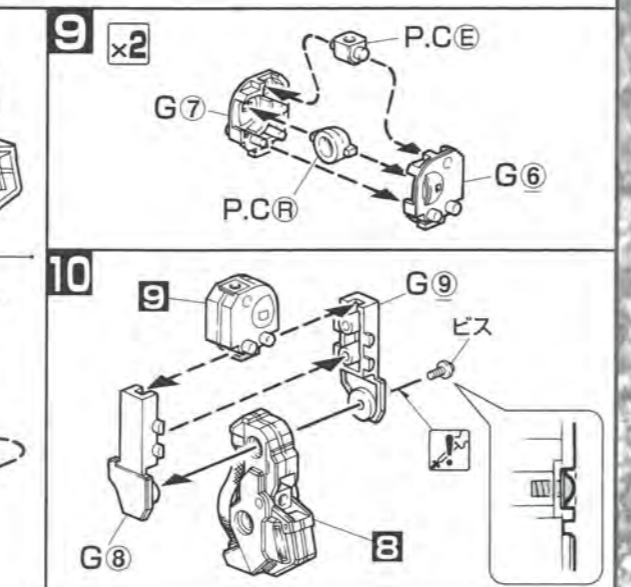
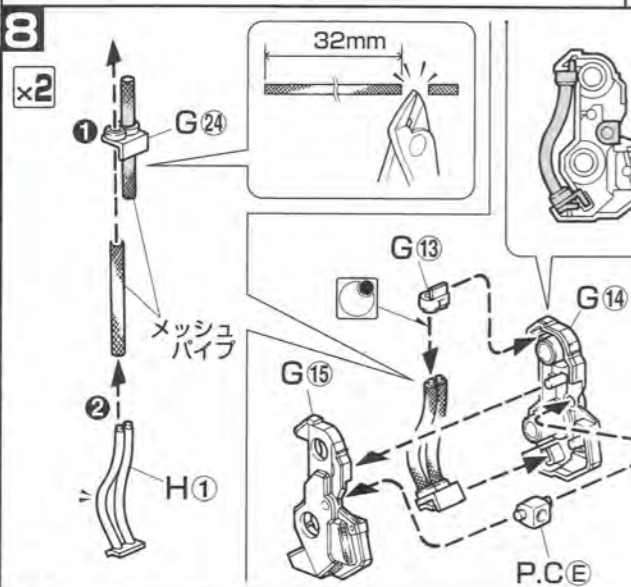
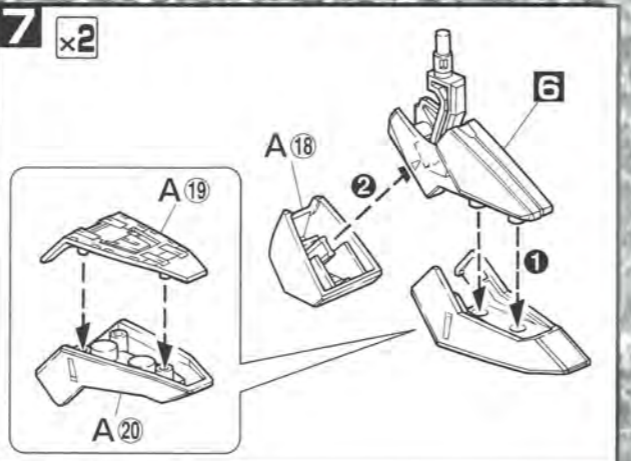
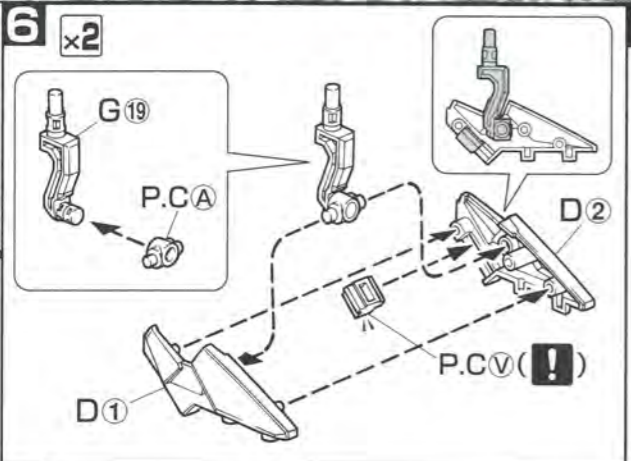
- 本商品の対象年齢は15才以上です。対象年齢未満のお子様には絶対に与えないでください。
- 小さな部品がありますので、小さなお子様が悪く飲み込まないように注意してください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 尖った部分や鋭い部分がありますので、取り扱いや保管場所に注意してください。思わぬケガをする恐れがあります。

- 〈組み立てる時の注意〉
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
 - 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
 - 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
 - 塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
 - 尖った先端や薄い縁端部に触れながらの組み立てには十分ご注意ください。
 - ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

※このキットの組み立てには+(プラス)ドライバーを使いますので別にご用意ください。

接着をするところの線	シールの番号	デカールの番号	反対側に取り付けるパーツ	両側に同じパーツを取り付ける	向きに注意して取り付ける	ビスの締めすぎに注意
切り取る場所	部品を数値の回数作ります	先に組み立てます	後に組み立てます	数値に合わせて回転させます	どちらかを選んで取り付ける	反対側も同じように動かします

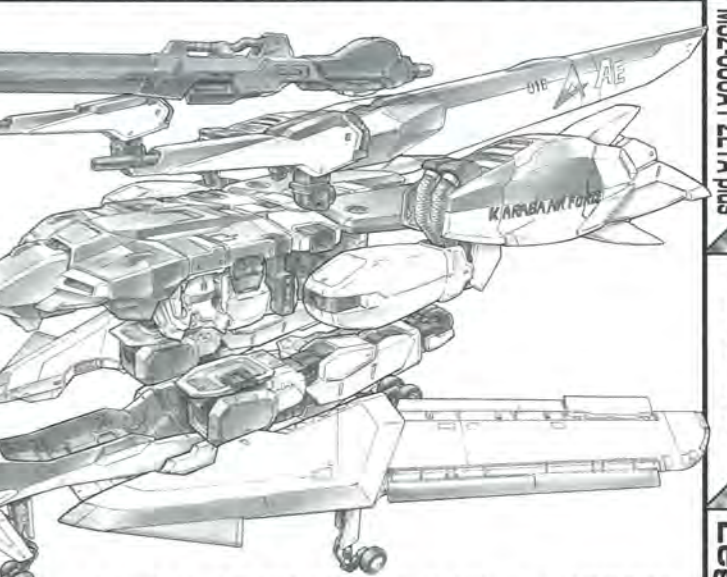




WAVE RIDER

大気圏内専用機として開発されたZプラスA1型は、その用途を大気圏内に限定したため、Zガンダム以上の飛行性能とコストパフォーマンスを獲得した。ただし、通常の戦闘機並みの空戦能力は達成できていない。

Zプラスの開発における主眼は、MSに飛行能力を持たせることであった。単独では狭い行動半径しか持たないMSは、ドダイやシャクルズなどのS・F・S(サブ・フライト・システム)などによって航続距離を延長するか、ホバーなどの装備によって移動速度を向上させるしかなかった。そこで、アッシマーなどの可変MSが開発され、MSの空力特性を改善することで、より飛行に適した機体なども登場していた。そんな中においてZプラスは、破格の飛行性能を持っていた。それまで、単独で数百kmもの移動が可能なMSなど、皆無に等しかったのである。

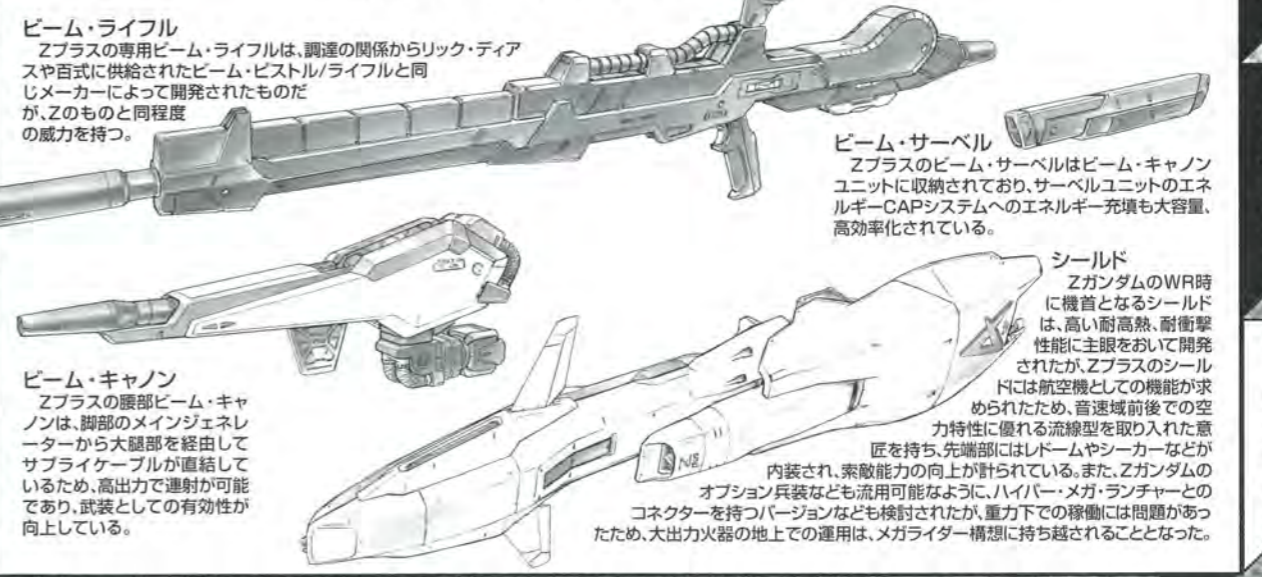


Zガンダムは、大気圏突入のため、フライングアーマーには極超音速における高熱や衝撃波に耐え得る装甲材や構造などが求められた。その結果採用された形態から、突入モードはWR(ウェイライダー)と呼ばれる。そのため、大気圏突入を想定していなくとも、TMSの飛行形態は便宜上WR形態と呼ばれることが多い。Zプラスに要求されたのは、精々マッハ1前後での飛行性能だったため、装甲材の材質選定などでもコスト削減が可能となった。ただし、シールドの先端は対空レーダーを始めとする各種センサーを組み込んだ本格的なサブユニットとなっており、唯一Zガンダムより高価なユニットとなっている。フライングアーマーの代わりに採用されたウイングバインダーは、WR形態時にVG(Variable Geometry)翼として機能するため、空力特性も飛躍的に向上している。加えて、推力は大気を取り込んで燃焼する熱核ジェットエンジンによって得られるため、プロペラントの「保ち」も圧倒的に改善されたのである。ただし、ZプラスA型は「空戦」を想定していなかったため、WR形態時の、いわゆるドッグファイト性能は、一般的な戦闘機に比べてかなり水準が低く、後の課題となっていた。

Conceptual illustration : Katoki-Hajime

WEAPONS

ZプラスA1の主武装は、両モードで使用可能なビーム・ライフルおよび腰部のビーム・キャノンである。特にビーム・キャノンはエネルギーケーブルがユニットに直結しているため、その威力はZガンダムのものを上回る。



ビーム・ライフル
Zプラスの専用ビーム・ライフルは、調達の関係からリック・ディアスや百式に供給されたビーム・ピストル/ライフルと同じメーカーによって開発されたものだが、Zのものと同程度の威力を持つ。

ビーム・サーベル
Zプラスのビーム・サーベルはビーム・キャノンユニットに収納されており、サーベルユニットのエネルギーCAPシステムへのエネルギー充填も大容量、高効率化されている。

ビーム・キャノン
Zプラスの腰部ビーム・キャノンは、脚部のメインジェネレーターから大腿部を経由してサブライケーブルが直結しているため、高出力で連射が可能であり、武装としての有効性が向上している。

シールド
ZガンダムのWR時に機首となるシールドは、高い耐高熱、耐衝撃性能に主眼を置いて開発されたが、Zプラスのシールドには航空機としての機能が求められたため、音速域前後での空力特性に優れた流線型を取り入れた意匠を持ち、先端部にはレドームやシーカーなどが内装され、索敵能力の向上が計られている。また、Zガンダムのオプション兵装なども流用可能なように、ハイパー・メガ・ランチャーとのコネクターを持つバージョンなども検討されたが、重力下での稼働には問題があったため、大出力火器の地上での運用は、メガライダー構想に持ち越されることとなった。



CALIFORNIA IN NOVEMBER

U.C.0087年11月、ZプラスA1型がAEのキャリフォルニア工場でロールアウトした。カラバは地上における制空権の奪回とティターンズの拠点攻略を計るため、ガルダ級輸送機アウドムラを中核とする18TFAS (Tactical Fighter Aggressor Squadron=戦術戦闘対抗飛行隊)を編成し攻勢に出ようとしていた。しかし、その前途には問題が山積していた。「パイロットがおらんとはどういうことだ!?」「いえ、いないわけじゃない。ただ、MSと航空機の両方をこなせるレベルじゃないと……」「養成なぞやっとなる暇はない!! どうにかできるのか!」スポンサーらしい癒せぎすの男が若い技術者に食ってかかる。「せーたは乗りこなせばいい機体ですよ!」フライトジャケットを着た青年が現れ、癒せぎす男をなだめるように言った。「タンデムのB型ができるまで、僕がテストパイロットをやりますよ、ウォンさん」「……君が言うなら、任せよう」窮地を救われた技術者は、目の前に現れた青年が誰だったかを思い出し、目をしばたかせていた。



BLUE SKY

U.C.0087年12月、ZプラスのWR状態での空戦能力の向上を計るため、あらゆる系列機の開発が検討されていた。その基礎データを収集するため、機体各所にセンサーを付けたA1が最高速度で飛行を繰り返している。「どうですか大尉? 夕々のZプラスは」「大尉はよしてくれよ。僕は「おたすね者」のテストパイロットなんだから!」後方で機体状態をモニタリングしている僚機からの通信に応えながら、「大尉」と呼ばれた青年は、正面の真っ青な空を見つめながら、ある考えに気が取られていた。「ジオンが……通って来たか……。一瞬、彼は初めてMSで大気圏に再突入した時のことを思い出していた。「……どうかしましたか? 大尉」「……いや、空間戦闘用の再設計機のスケジュールはどうだったかな?」「えっ、例の再突入できる奴ですか? 何か問題でも?」「いや、何でもなし……そろそろ始めようか」「了解、管制機、1408、トライアル開始だ。ちゃんと見とけよ!!」2機はおもむろに、実戦さながらのドッグファイトを繰り返す!!



MOBILE SUIT MODE

2機のZプラスはMSモードに変形し、自由落下しながら次のメニュー開始を待っていた。「肩のAだけど、オレのイニシャルに使ってもいいかな?」「そりゃあ、大尉に使ってもらえるならアナハイムの連中もきっと喜びますよ。もとはただの“Aタイプ”って意味なんだから」「ん、もうちょっとアレンジもしたいんだ」「いいと思いますよ!」そこに、無人機のアグレッサーが十数機ほど割って入る。無人機はティターンズのTMSを想定した機動を行い、2機をランダムに攻撃してくる。……まだ、宇宙に還るわけにはいかない。あの頃の感覚が戻らないうちは! 僚機が舌を巻くポイントをはじき出しながら、大尉と呼ばれる青年は歯噛みしていた。「大尉! 後ろ!!」「ちいっ!!」死角に回り込んだ最後の無人機を撃ち落とすと同時に、左肩の被弾を示す警報がモニターで点滅していた……

WAVE RIDER



PAINTING

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご確認ください。
※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
●ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。
●このキットをよりリアルに塗装したい方は、GSIクレオスより発売のガンダムカラー(MG「せーたプラス」用、その他カラーセット)をお使いください。

- 本体の塗装色。**
ホワイト(100%) + ライトブラウン少量 + グレー少量
※またはガンダムカラー ホワイト6
- 本体の塗装色。**
オレンジ(60%) + シャインレッド(30%) + ホワイト(10%)
※またはガンダムカラー オレンジ1
- つま先、かかととの塗装色。**
ホワイト(80%) + グレー(20%) + ライトブラウン少量
※またはガンダムカラー グレー21
- 武器、関節の塗装色。**
ブルーグレー(60%) + ネイビーブルー(30%) + ブラック(10%)



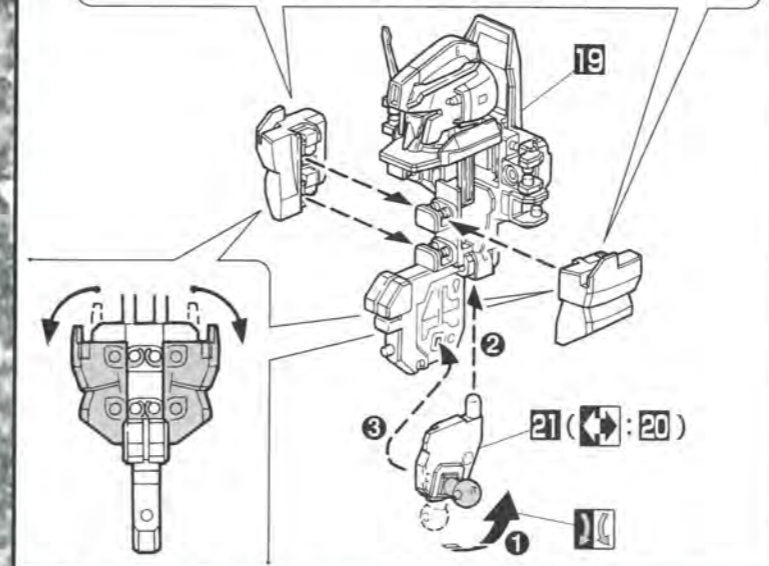
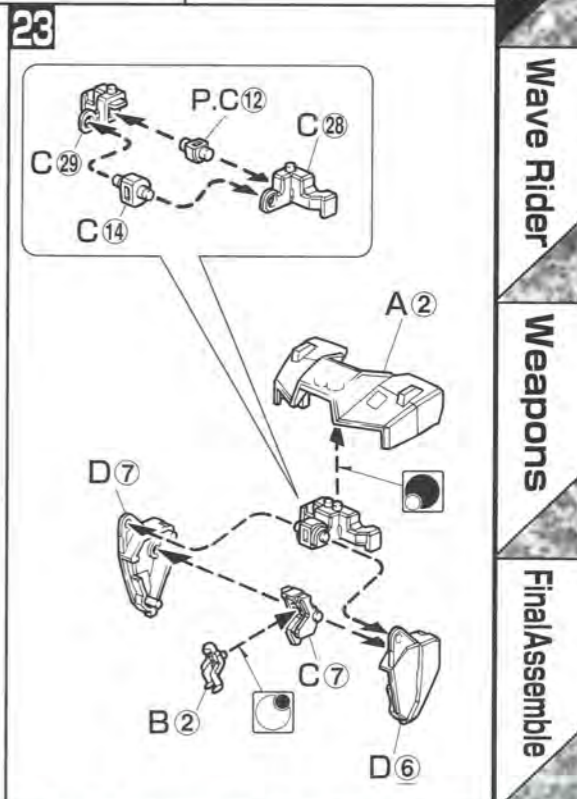
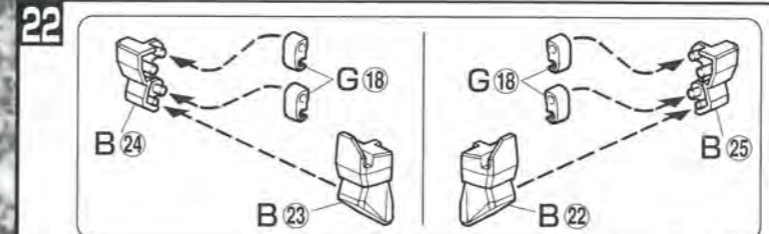
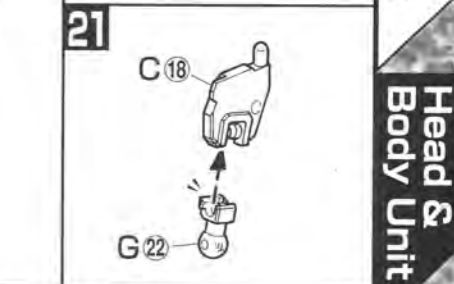
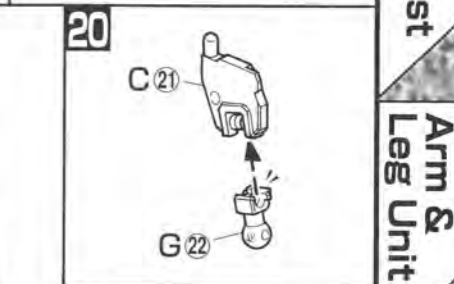
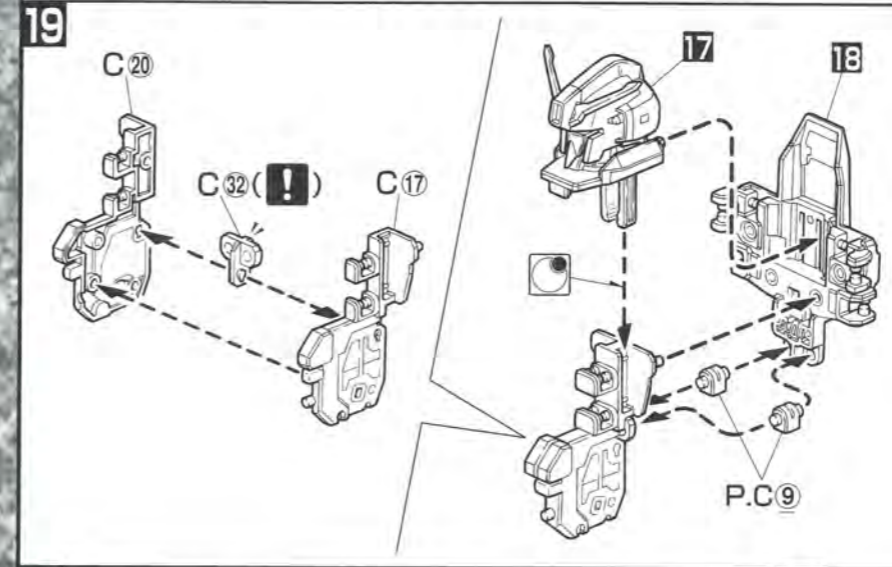
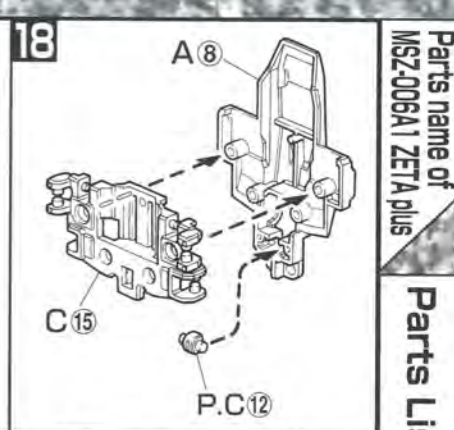
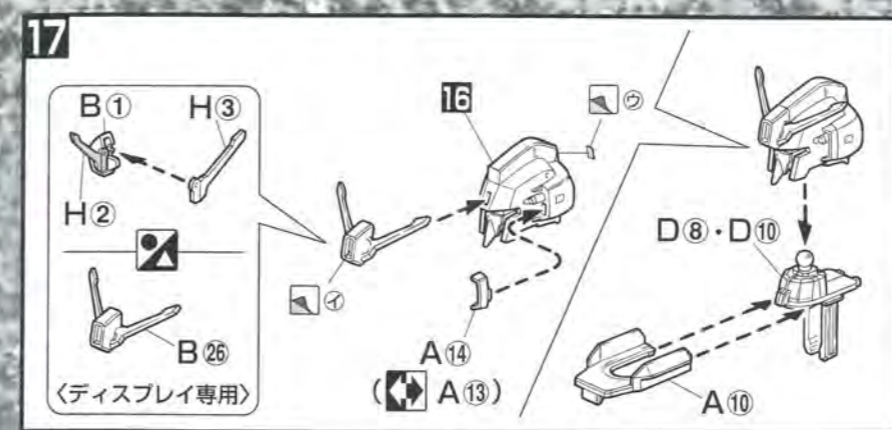
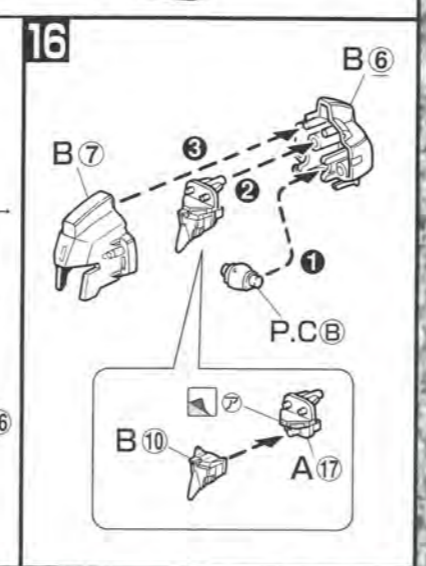
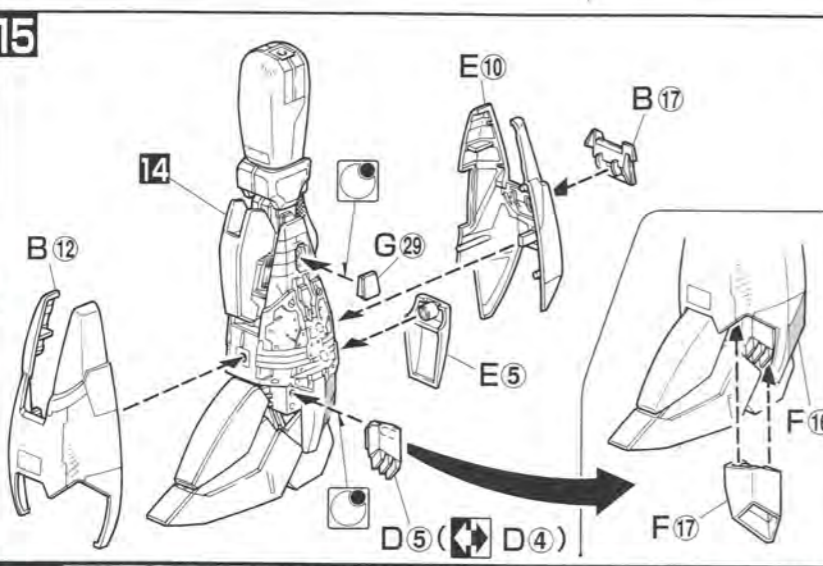
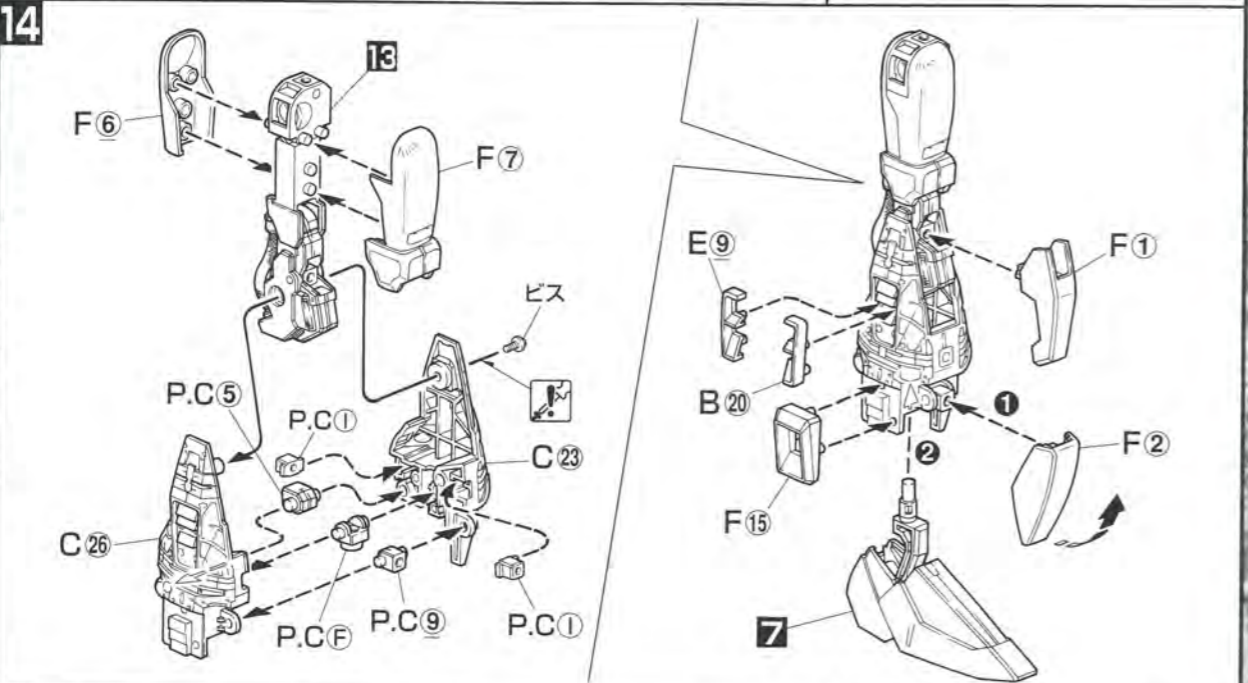
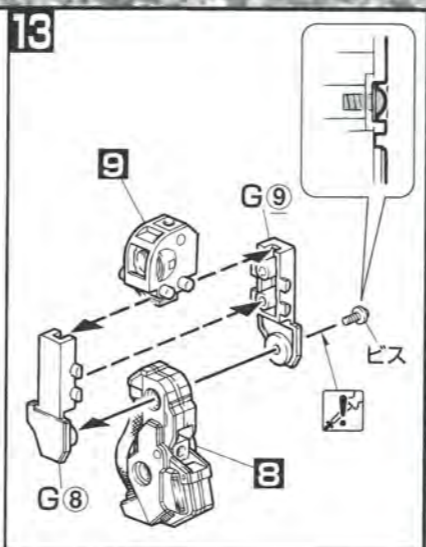
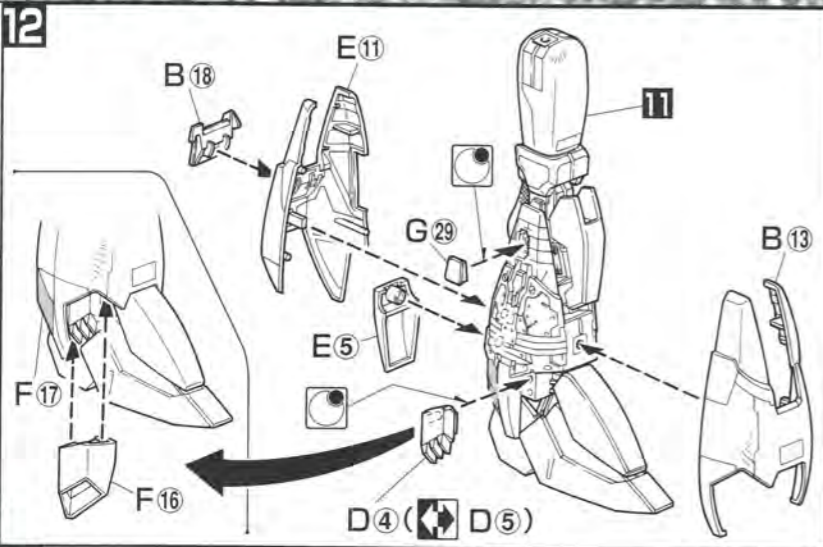
FRONT VIEW

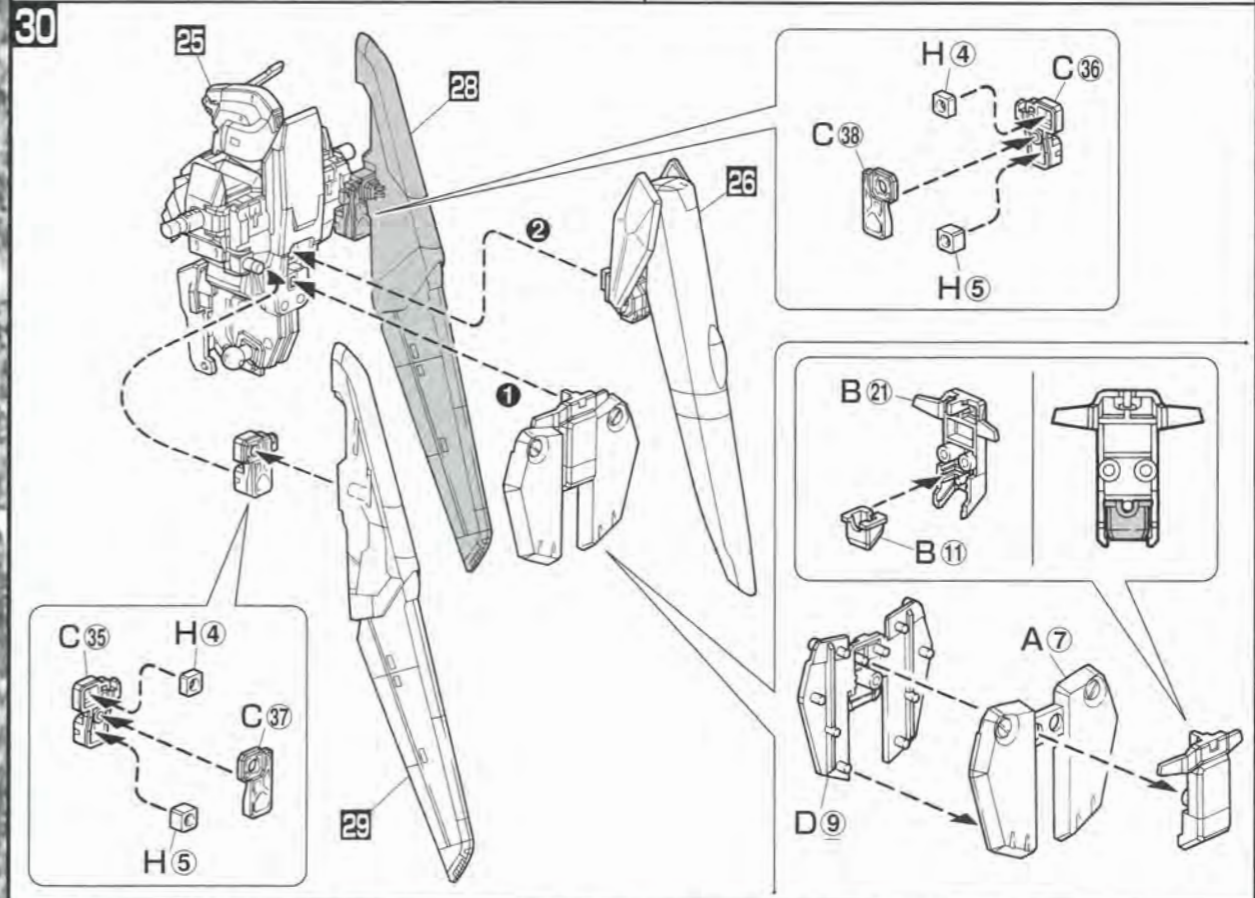
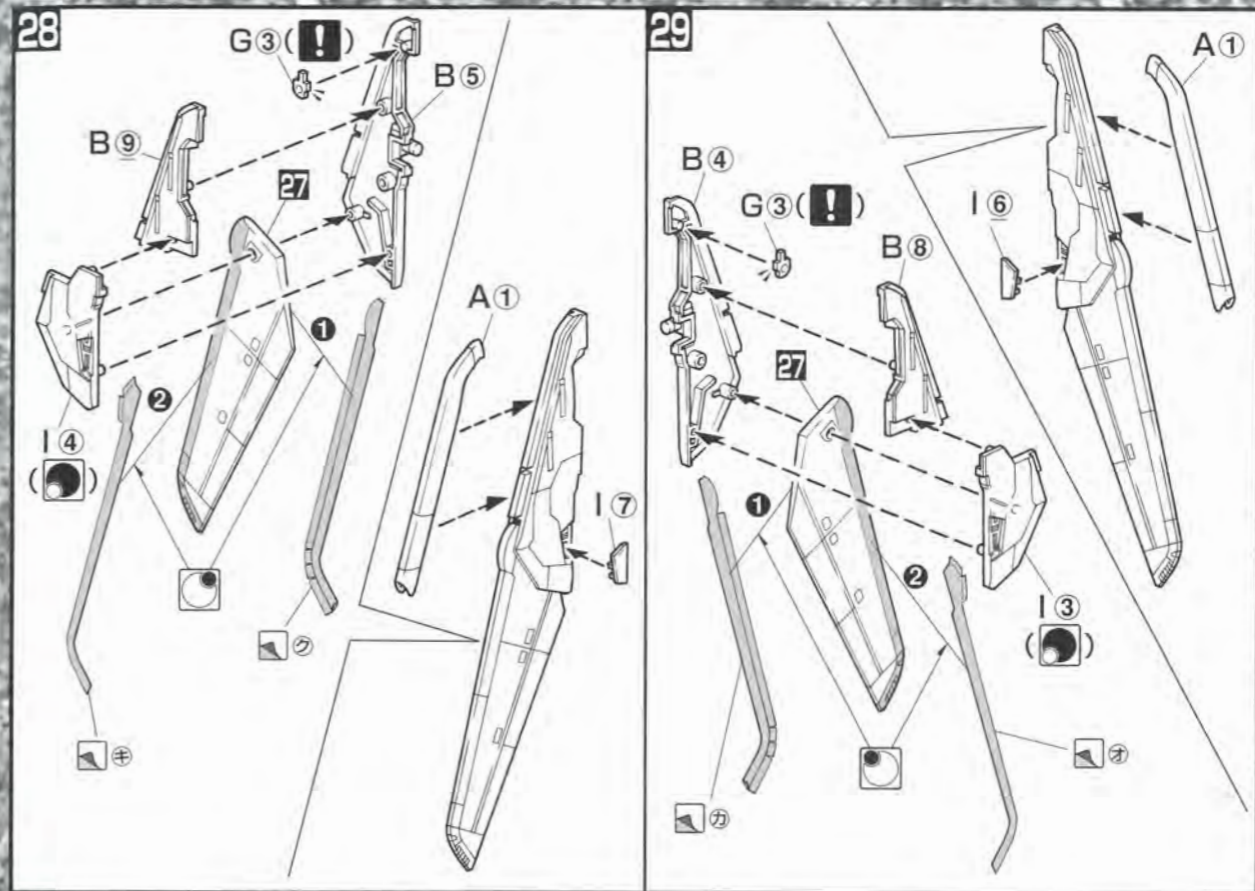
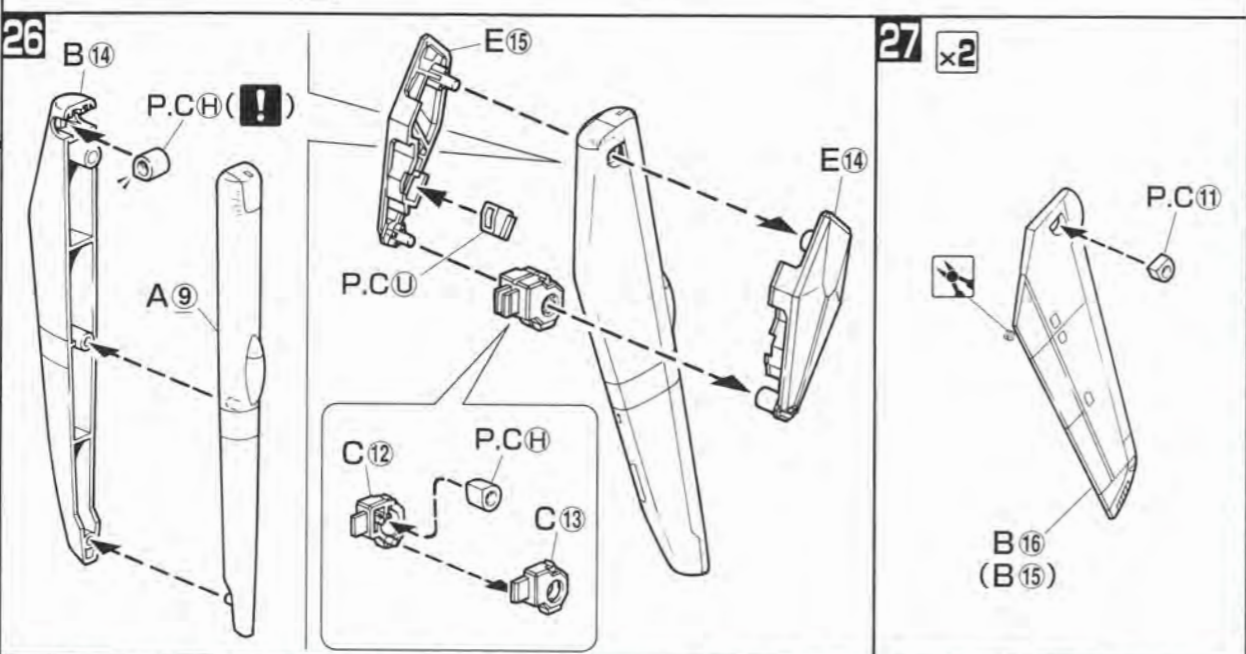
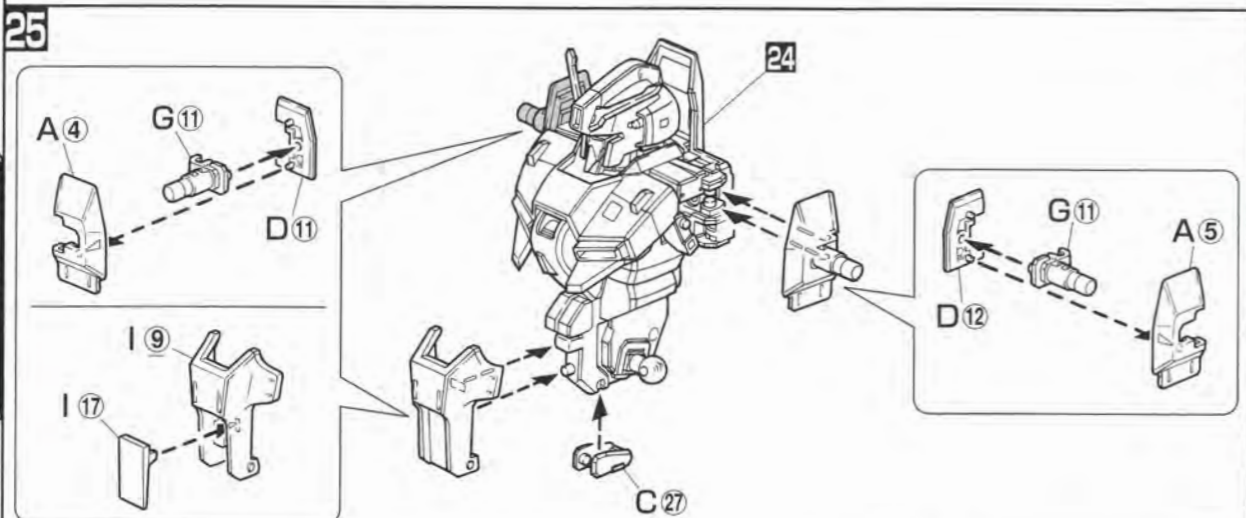
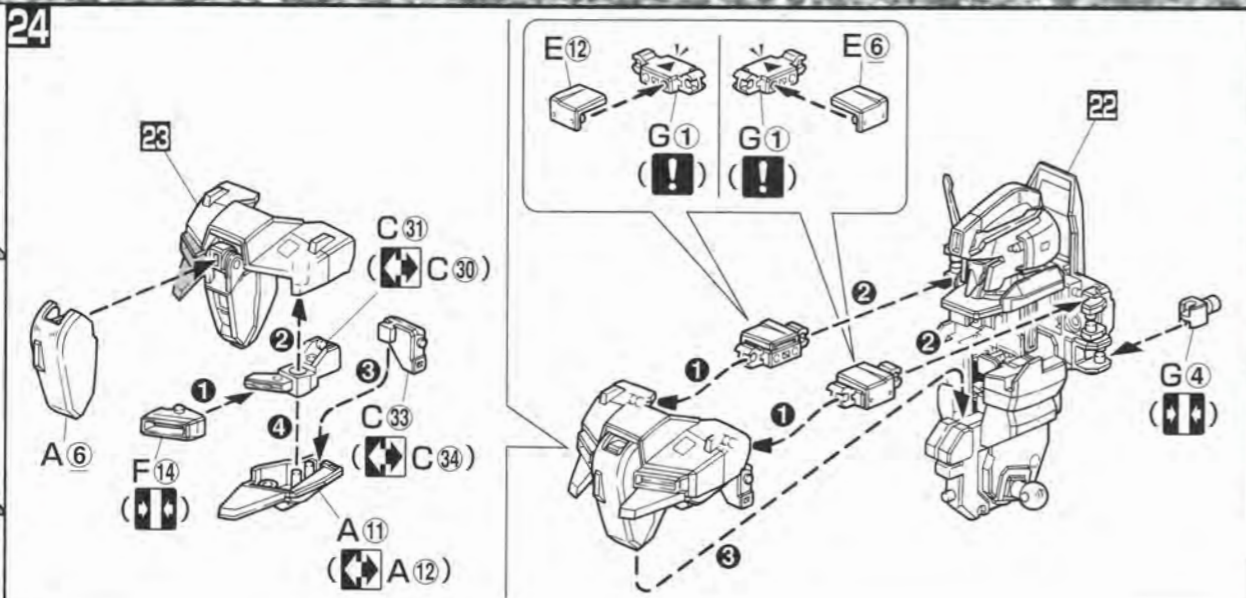


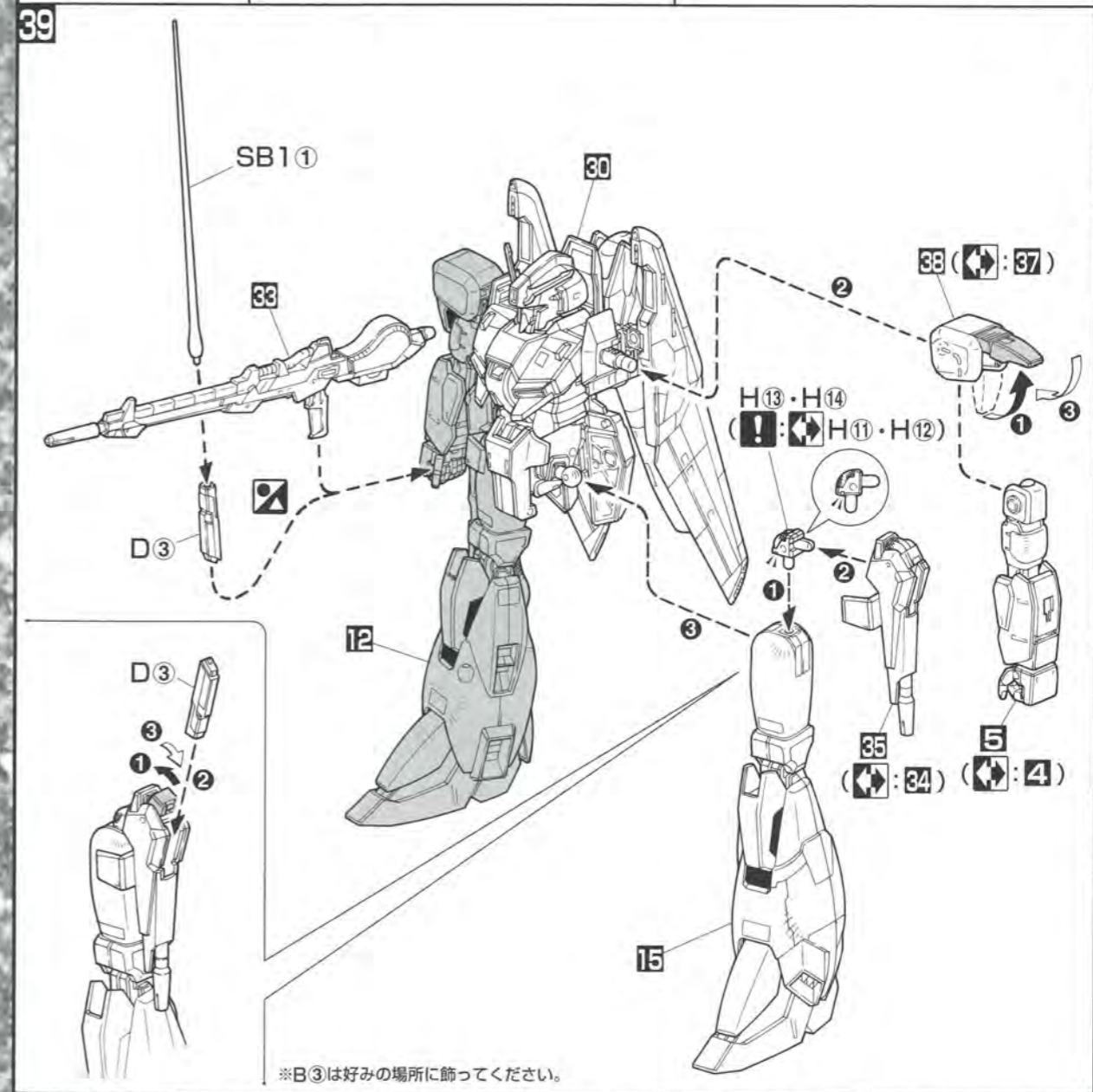
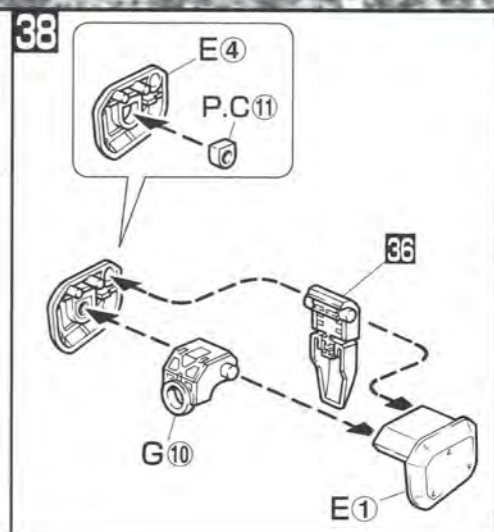
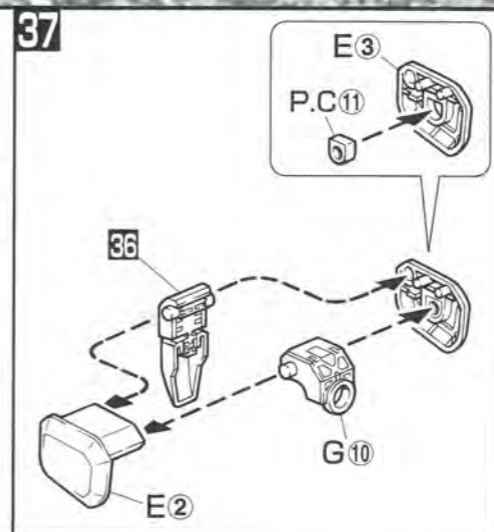
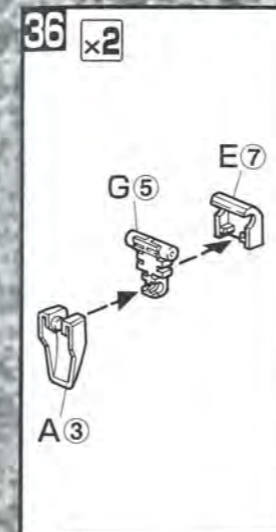
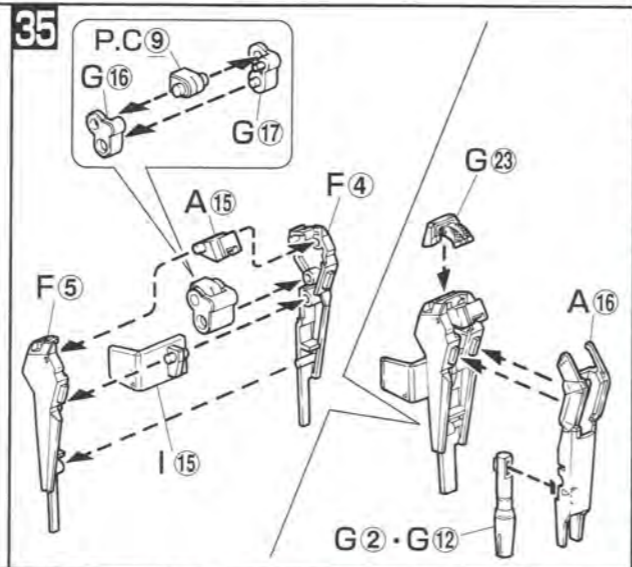
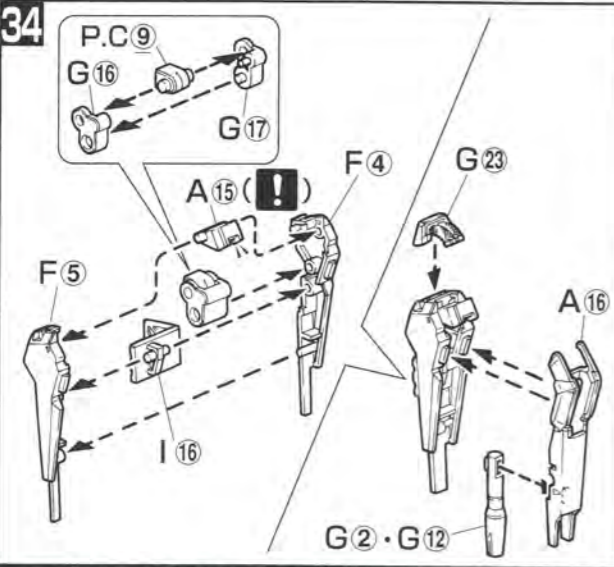
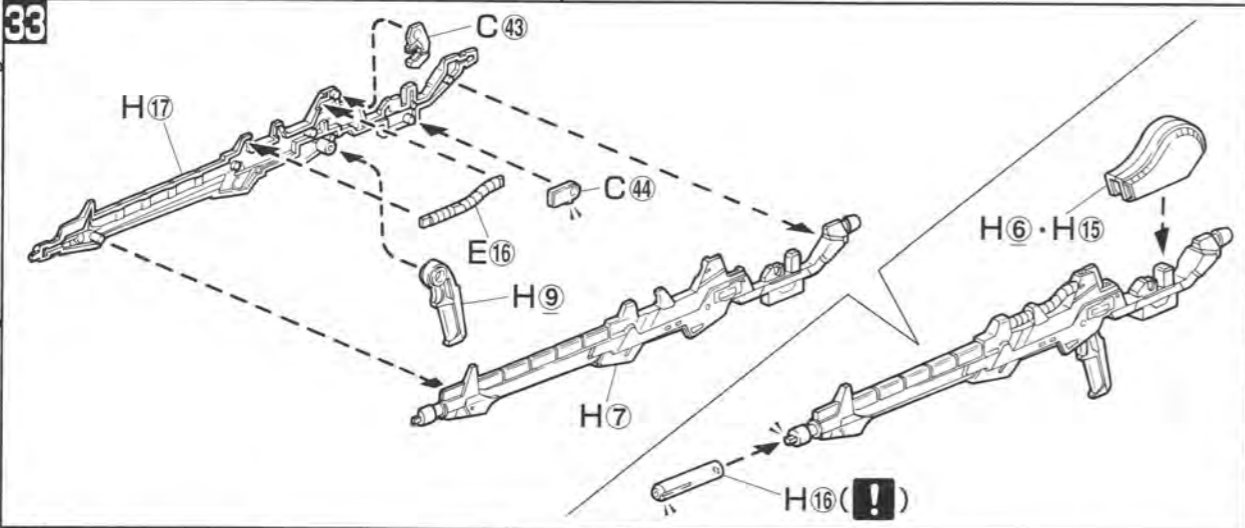
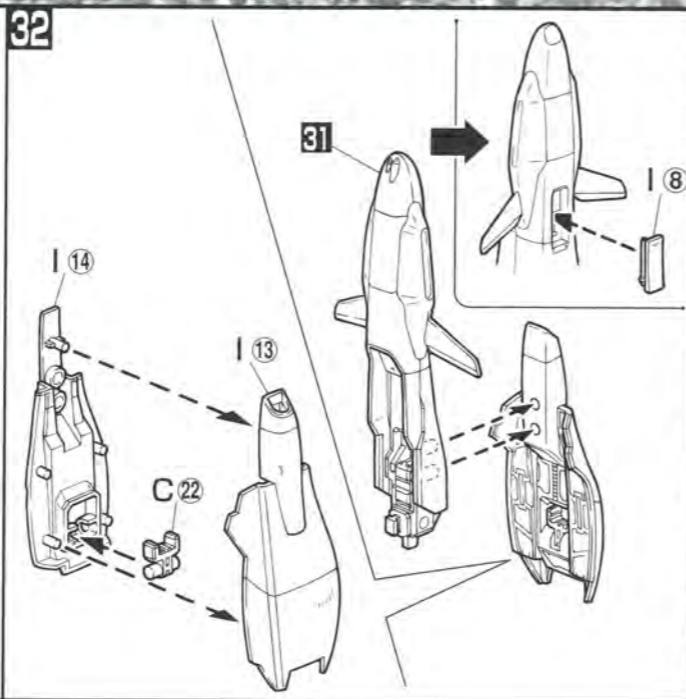
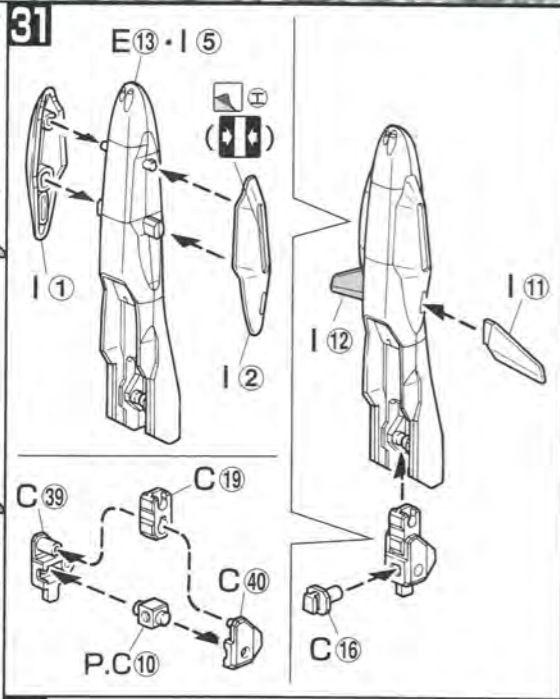
REAR VIEW



▲ ビーム・サーベル、シールドと、新たにデザインされた専用ビーム・ライフルをセット。

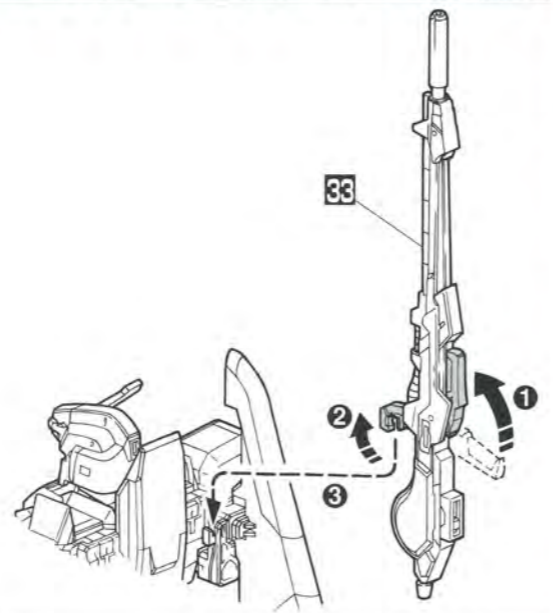
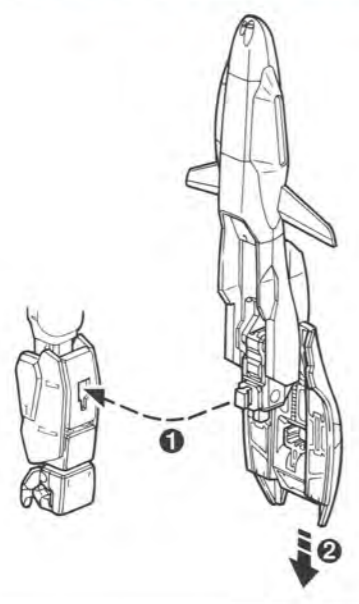




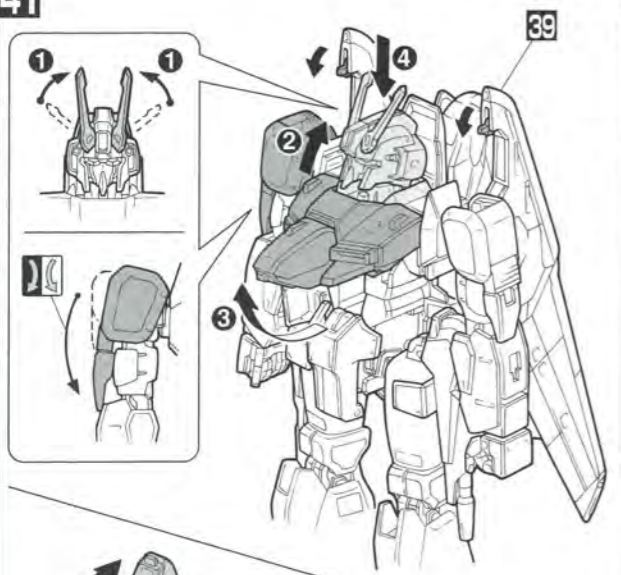


※B③は好みの場所に飾ってください。

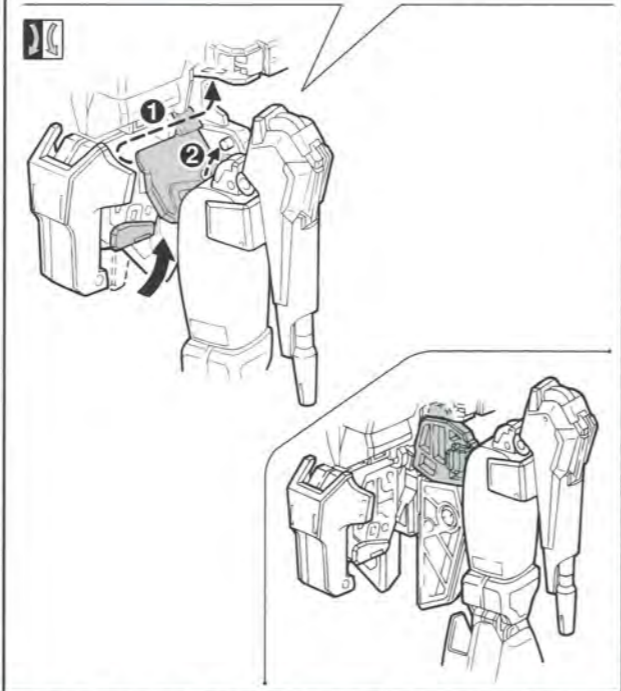
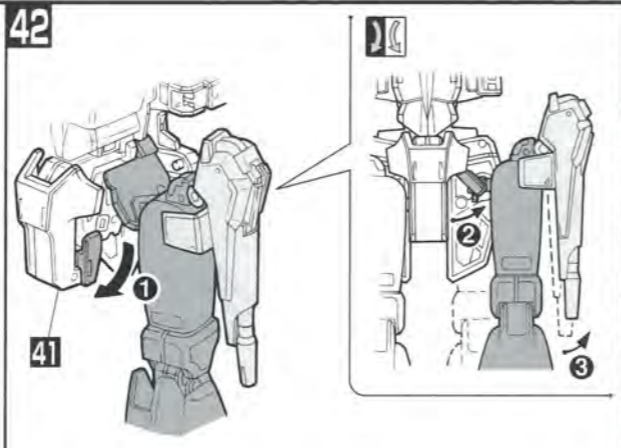
40



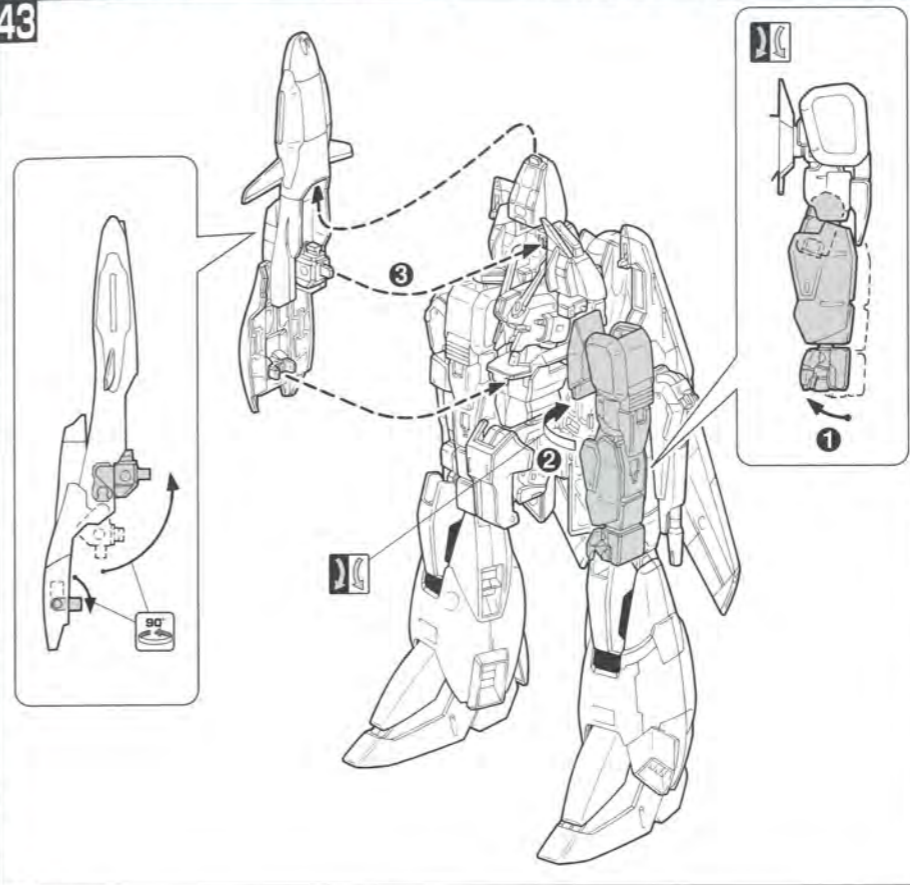
41



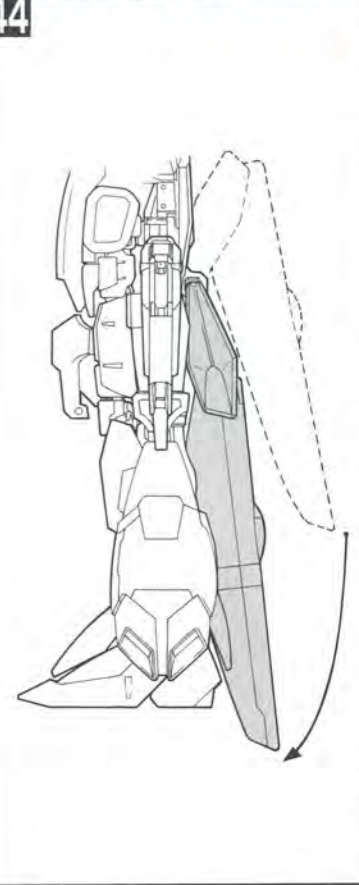
42



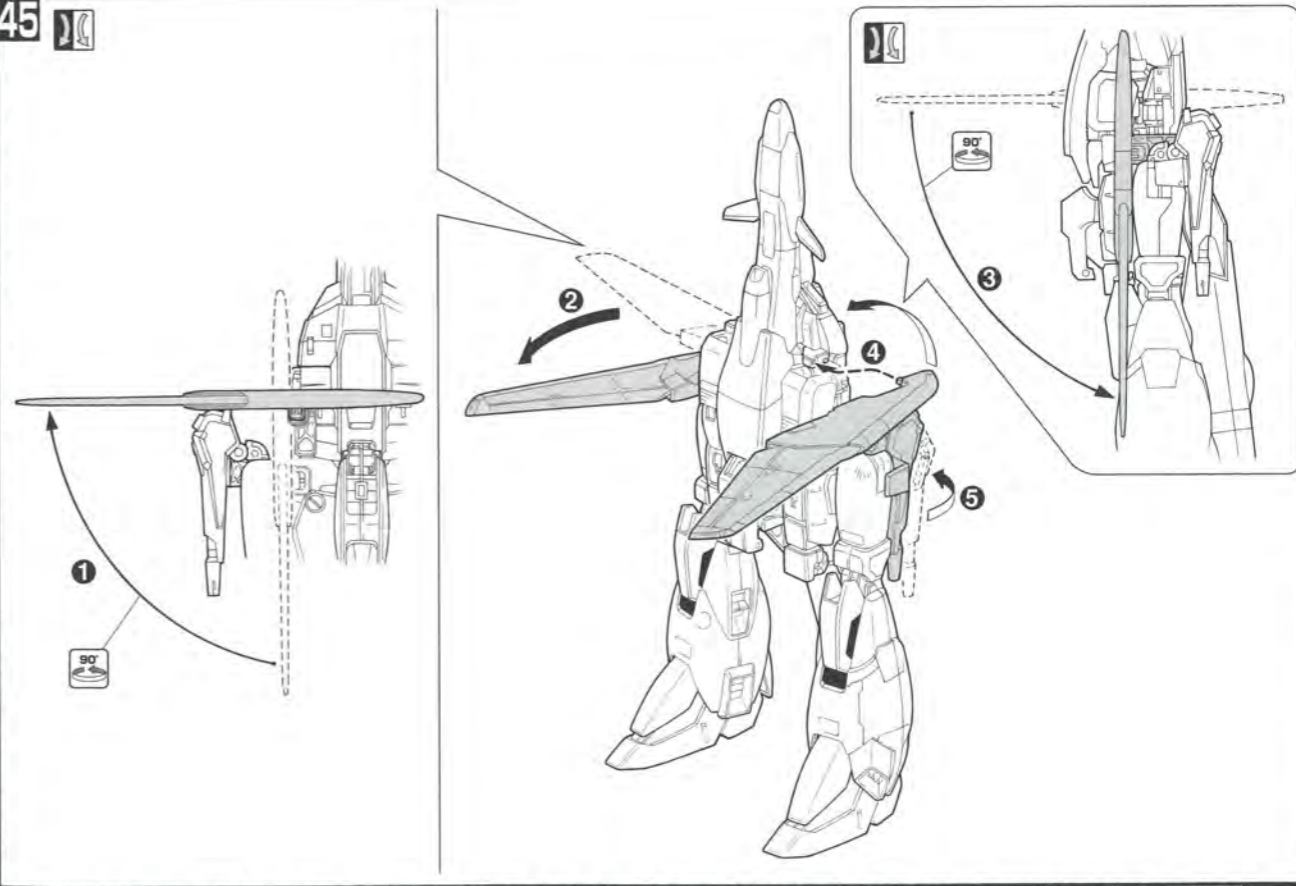
43

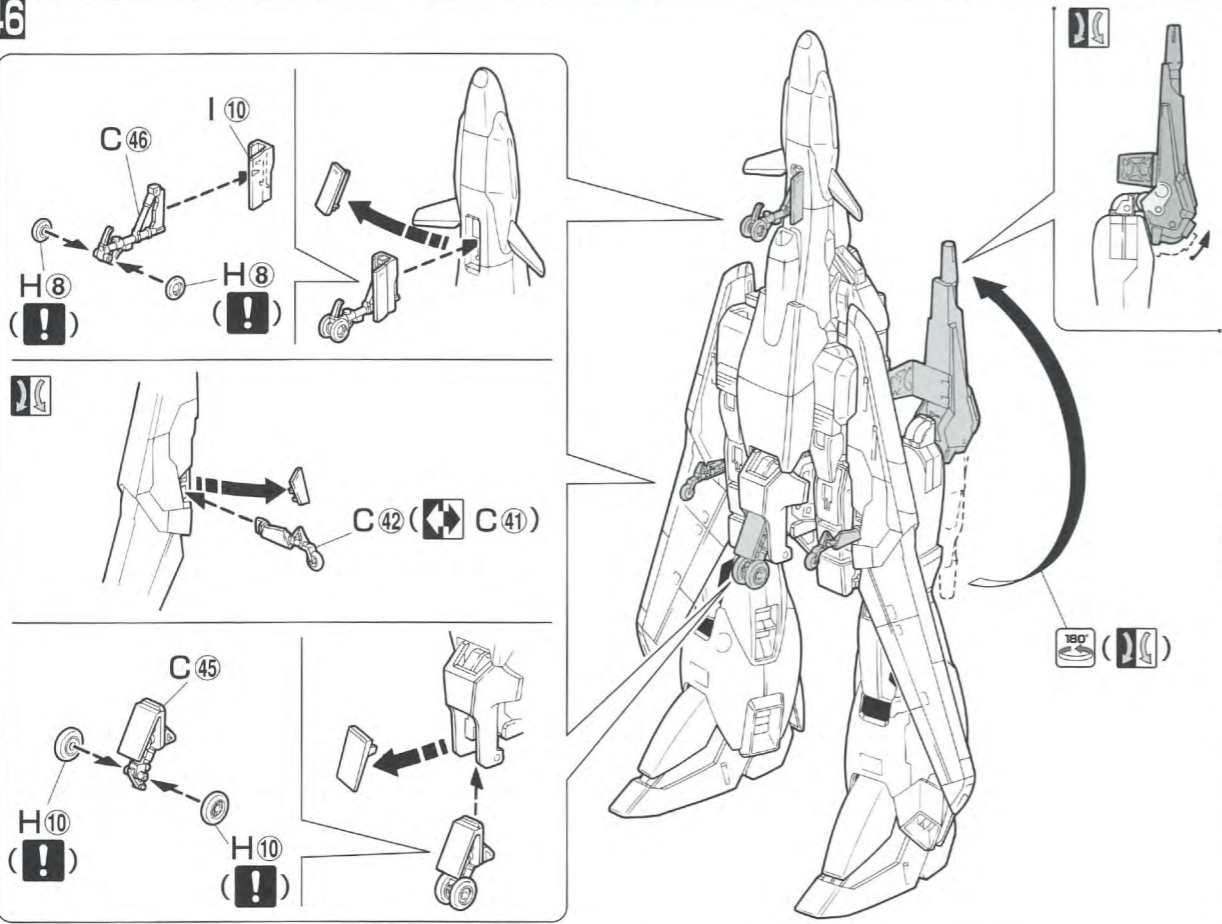


44



45



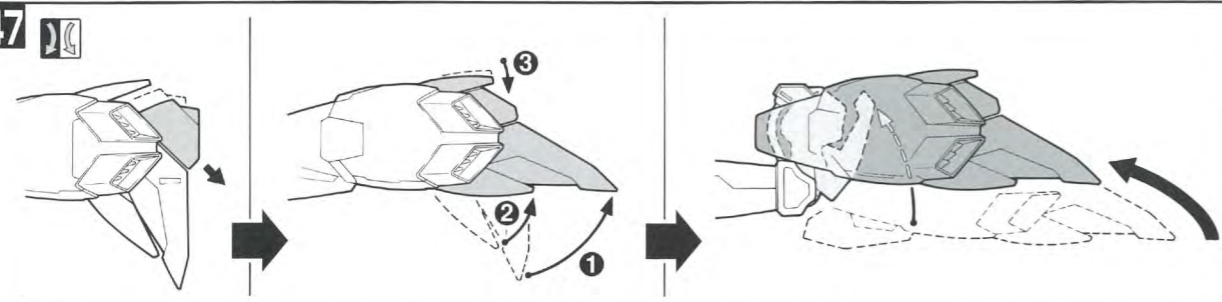


Parts name of MSZ-006A1 ZETA plus
MSZ-006A1 ZETA plus

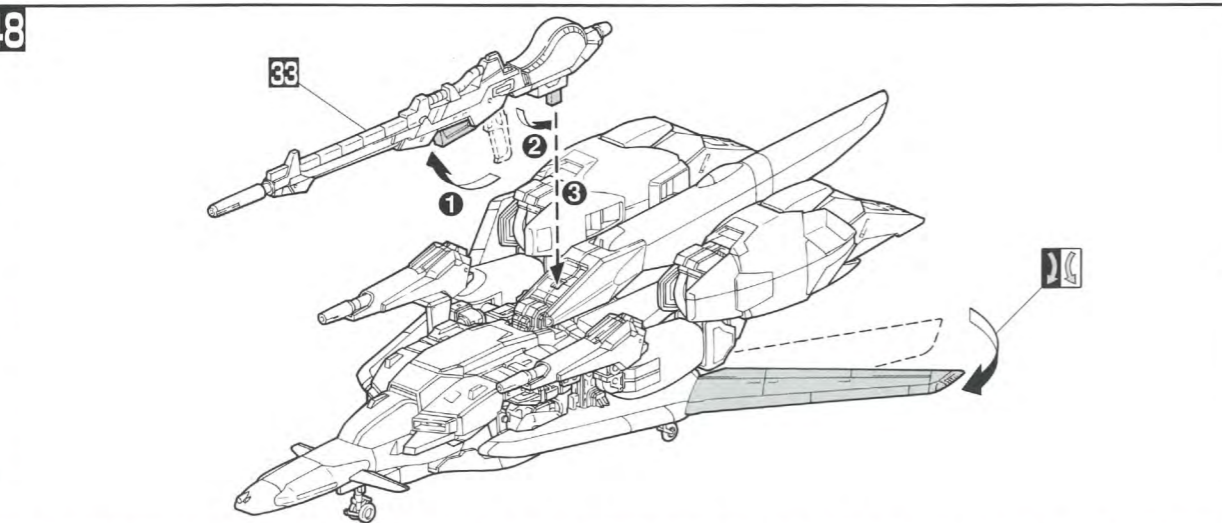
Parts List

Arm & Leg Unit

Head & Body Unit



Wave Rider



Weapons

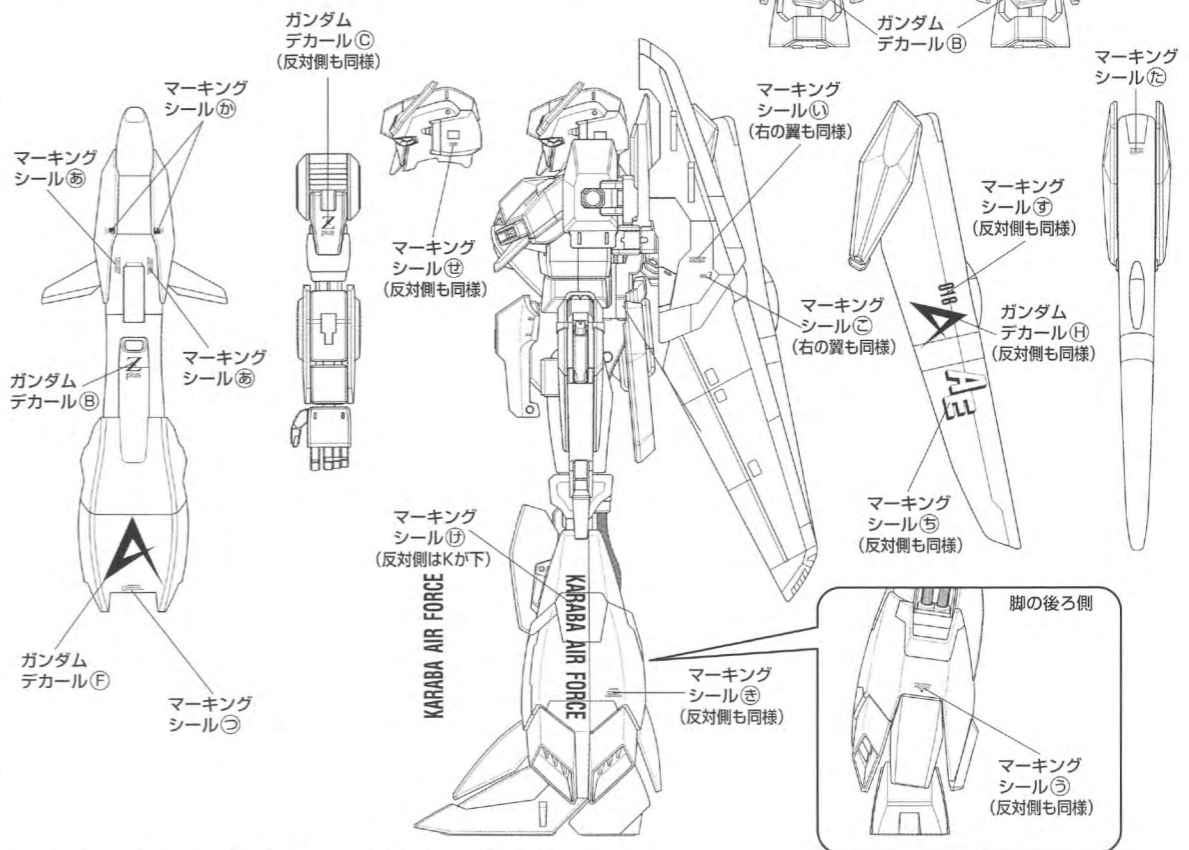
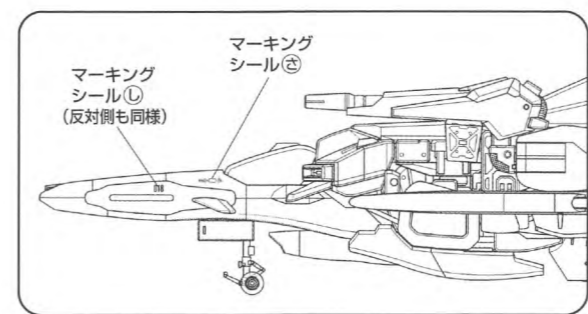
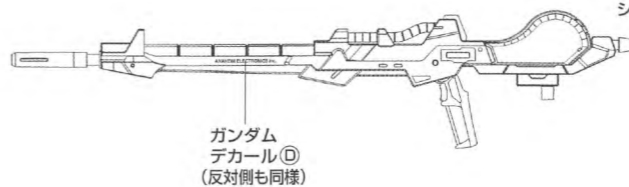
Final Assemble

Seal (シール)

下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはる位置を確認してください。

ガンダムデカールのはりかた。

1. 転写するマークを大きめに切り取ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすり取ります。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。